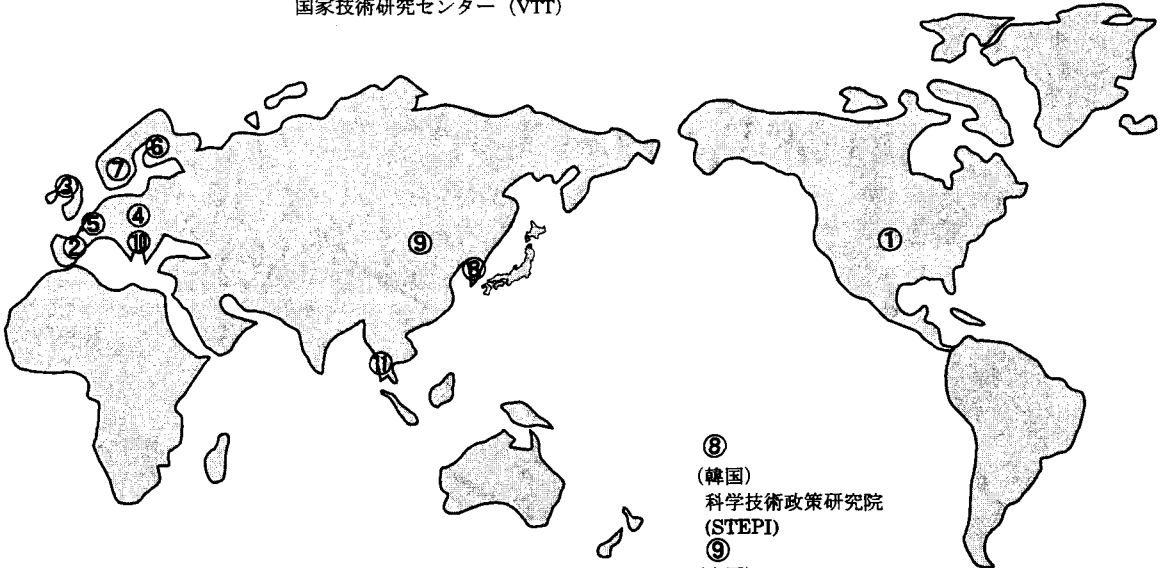


海外科学技術政策研究機関ハンドブック

- ③ (イギリス)
サセックス大学
マンチェスター大学
- ④ (ドイツ)
フラウンホーファー協会
システム・技術革新研究所
(FhG/ISI)
- ② (EU)
共同研究センター
未来技術研究所(IPTS)
(スペイン)
- ① (アメリカ)
国立科学財団(NSF)
全米科学振興協会(AAAS)
ハーバード大学
ジョージメイソン大学
マサチューセッツ工科大学(MIT)
科学・政策・業績センター(CSPO)
世界技術評価センター
- ⑤ (フランス)
科学技術観測所(OST)
- ⑥ (スウェーデン)
イノベーションシステム庁 (VINNOVA)
- ⑦ (フィンランド)
国家技術研究センター (VTT)
- ⑧ (韓国)
科学技術政策研究院
(STEPI)
- ⑨ (中国)
科学技術部科学技術促進発展研究中心
- (国際機関)
⑩ 国際応用システム分析研究所(IIASA) (オーストリア)
⑪ APEC 技術予測センター (タイ)



2002年3月

文部科学省 科学技術政策研究所

このハンドブックは、執筆者の知見に基づき作成したものである。

執筆者 (50 音順)

伊地知寛博 第1研究グループ主任研究官
柿崎 文彦 第3調査研究グループ主任研究官
清貞 智会 科学技術動向研究センター特別研究員
斎藤 尚樹 企画課長
下田 隆二 総務研究官
鈴木 研一 第1調査研究グループ上席研究官
相馬 融 情報分析課長
竹下 貴之 第1研究グループ研究官
富澤 宏之 第2研究グループ主任研究官
藤原 志保 企画課員
松澤 孝明 文部科学省研究振興局基礎基盤研究課長補佐
横尾 淑子 科学技術動向研究センター研究官
横田 慎二 科学技術動向研究センター総括ユニット長

執筆協力

赤池 伸一 文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官補佐
清浦 隆 文部科学省研究開発局開発企画課立地地域対策室長補佐
松尾 泰樹 文部科学省科学技術・学術政策局政策課長補佐

Handbook of Selected Science and Technology Policy Research Institutes

The views expressed in this handbook are solely those of the authors who are in charge of each section and do not represent the view of the NISTEP.

March 2002

Written by

Tomohiro IJICHI, Fumihiko KAKIZAKI, Tomoe KIYOSADA,
Naoki SAITO, Ryuji SHIMODA, Ken-ichi SUZUKI,
Toru SOUMA, Takayuki TAKESHITA, Hiroyuki TOMIZAWA,
Shiho FUJIWARA, Takaaki MATSUZAWA, Yoshiko YOKOO,
Shinji YOKOTA

Cooperated with

Shin-ichi AKAIKE, Takashi KIYOURA, Hiroki MATSUO

National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP)
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
JAPAN

目 次

(1) <u>米国</u>	
・ 国立科学財団 (NSF) -----	1
・ 全米科学振興協会 (AAAS) 科学政策プログラム -----	6
・ ハーバード大学 (JFK School・STPP) -----	8
・ ジョージメイソン大学 (公共政策研究所) -----	11
・ マサチューセッツ工科大学 (MIT・技術と政策計画) -----	19
・ 科学・政策・業績センター (CSPO) -----	21
・ 世界技術評価センター -----	23
(2) <u>EU</u>	
・ 未来技術研究所 (IPTS) -----	29
(3) <u>英国</u>	
・ サセックス大学 (科学政策研究科 SPRU) -----	30
・ マンチェスター大学 (工学科学技術政策研究所 PREST) -----	33
(4) <u>ドイツ</u>	
・ フラウンホーファ協会システム・技術革新研究所 (FhG/ISI) -----	39
(5) <u>フランス</u>	
・ 科学技術観測所 (OST) -----	42
(6) <u>スウェーデン</u>	
・ イノベーションシステム庁 (VINNOVA) -----	50
(7) <u>フィンランド</u>	
・ 国家技術研究センター (VTT) -----	57
(8) <u>韓国</u>	
・ 科学技術政策研究院 (STEPI) -----	63
(9) <u>中国</u>	
・ 科学技術部科学技術促進発展研究中心 -----	67
(10) <u>国際機関</u>	
・ 国際応用システム分析研究所 (IIASA：オーストリア・ウィーン) -----	70
・ APEC 技術予測センター (タイ・バンコク) -----	73
(参考)	
・ 科学技術政策研究所 (NISTEP) -----	74

名称 (和文)	全米科学財団
(英文)	National Science Foundation (NSF)
(原語)	同上
住 所	4201 Wilson Boulevard, Arlington, Virginia 22230, USA (地図 ○有・無) http://www.nsf.gov/home/visit/start.htm 参照
主 要 業 務	<ul style="list-style-type: none"> ○ 助成と委託を通じて、科学・工学の研究やプログラムを開始した支援すること ○ 科学・工学分野の大学院レベルのフェローシップを提供すること ○ 科学者・技術者の国際交流を強化すること ○ 科学研究と教育の基本となる、コンピュータ、科学的手法、技術の開発と利用手法を強化し支援すること ○ 科学・工学の状況とニーズを評価すること ○ 科学的及び技術的な資源データの収集・解釈・分析等の方法により、米国の科学技術人材の記録を継続すること ○ 高等教育機関等が受け入れた連邦政府資金の把握とその状況を大統領及び議会に報告すること ○ 国際協力、国家安全保障、科学技術の社会への適用に関連した科学・工学活動を開始した支援すること ○ 学術機関及び非営利機関での応用研究を含む科学・工学の研究を開始した支援すること、及び大統領の支持の下にその他の機関における応用研究を支援すること ○ 基礎研究と教育の振興に対する国家政策のあるべき姿を提示しそして奨励すること。全米の自己資金あるいは個人による研究も含め、科学・工学における研究・教育・イノベーションを強化すること ○ 女性、少数民族等の人々の科学技術への参加機会増加の活動を支援すること
組 織 構 成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国科学理事会 (National Science Board; NSB) <ul style="list-style-type: none"> ○ NSB 事務局 (National Science Board Staff) ・ 長官室 (Office of Director; OD) <ul style="list-style-type: none"> ○ 極地プログラム室 (Office of Polar Programs; OPP) 他 4 室 ・ 生物科学局 (Directorate for Biological Science; BIO) ・ コンピュータ・情報科学工学局 (Directorate for Computer and Information Sciences & Engineering; CISE) ・ 教育・人材局 (Directorate for Education and Human Resources; EHR) ・ 工学局 (Directorate for Engineering; ENG)

	<p>○SBIR (Small Business Innovation Research) 他 6 課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球科学局 (Directorate for Geosciences; GEO) ・ 数学・物理科学局 (Directorate for Mathematical and Physical Sciences; MPS) ・ 社会・行動・経済科学局 (Directorate for Social, Behavioral and Economic Sciences; SBE) <p>○国際科学工学室 (Office of International Science and Engineering; INT)、科学資源統計課 (Division of Science and Engineering Statistics; SRS)、他 2 課</p> <p>(別紙 ○有・無)</p> <p>http://www.nsf.gov/home/chart/orgchart.htm参照</p>
職員数及び研究スタッフ数	<p>24 名の非常勤会員と NSF 長官 (Director) により構成される国家科学審議会 (National Science Board; NSB) が中核</p> <p>NSB の会員は米国上院の助言と同意の下に、米国大統領が任命。上級職員には、米国上院の助言と同意の下に米国大統領により任命される副長官 (Deputy Director) が 1 名、及び 8 名の長官補佐官 (Assistant Directors ; 局長に相当)。</p> <p>職員数 1204 名 (2003 年度米国予算教書による)</p>
年間予算	<p>予算 46 億米ドル (2003 年度米国予算教書による)</p>
創設時期・沿革等	<p>1950 年に米国連邦政府の独立行政庁として設立。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「Science the Endless Frontier」、Vannervar Bush による大統領への報告 (1945) ・ Harry S. Truman 大統領の AAAS100 周年記念大会での演説 (1948) : NSF 設置を支持 ・ Harry S. Truman 大統領の一般教書 (1950) <p>「The National Science Foundation: A Brief History」、George T. Mazuzan 氏 (元 NSF Historian) によるレポート (NSF8816, 1994)</p> <p>「Inventing US Science Policy」、William Blanpied 氏 (現 NSF 東京事務所長) の論文 : Physics Today, 51(2), February 1998, pp. 34-40.</p> <p>http://www.nsf.gov/od/lpa/nsf50/history.htm参照</p>
コンタクトパーソン	<ul style="list-style-type: none"> ・ Name: Dr. Larry H. Weber ・ Title: Senior Program Manager, American Workforce and Research and Education (AWARE), East Asia and Pacific Program, Office of International Science and Engineering (INT), SBE ・ Tel.: +1-(703) 292-8704 ・ Fax: ・ E-mail: lweber@nsf.gov ・ URL: www.nsf.gov

	<ul style="list-style-type: none"> • Name: Dr. William A. Blanpied • Title: Director, NSF Tokyo Regional Office • Tel.: 03-3224-5505 • Fax: 03-3224-5769 • E-mail: wblanpie@nsf.gov • URL: www.nsftokyo.org (NSF 東京事務所)
<p>その他 特記事項</p>	<p>(主な交流経緯)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1988.09-1988.11 Maria Papadakis 氏 (当時 SRS 研究官、現バージニア工科大学教授) 第 2 研究グループに滞在 (日本の科学技術統計・基礎研究に関する調査等) • 1989.01 NISTEP と Letter of Intent の交換 • 1989.01-1989.02 第 2 研究グループ鈴木主任研究官(当時)、短期在外研究員制度により派遣 (SRS) • 1989.03-1990.03 第 2 研究グループ柿崎主任研究官、長期在外研究員制度により派遣 (SRS) • 1989.11-1990.10 Janice Cassidy 氏 (当時 INT 職員)、長期 STA フェロー制度により第 1 研究グループに滞在 • 1996.03-1996.06 Jean M. Johnson 氏 (SRS 上席研究官)、短期 STA フェローにより第 2 研究グループに滞在 • 1997-1998 渡辺正実氏 (現ライフサイエンス課補佐) • 1998.10-1998.11 Yi Tzuu Cien 氏 (当時 Division of Information, Robotics and Intelligent System)、第 1 研究グループに滞在 • 1999.03-1999.04 Sara Nerlove 氏 (SBIR プログラム・マネージャー)、短期 STA フェロー制度により第 3 調査研究グループに滞在 • 2000-2001 桑原靖氏 (S58 文部省入省・現官房総務課主任教育改革官) JSPS 在外職員として NSF に派遣 • 2001- 伯井美徳氏 (S60 文部省入省・前官房人事課副長) JSPS 在外職員として NSF に派遣 • 2001.04 間宮所長 NSF 訪問

(作成者：第 3 調査研究グループ 柿崎 文彦；2002 年 3 月)



Visiting NSF

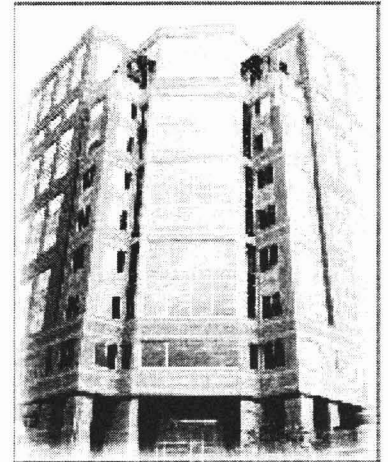
The NSF welcomes thousands of visitors a year. Should you need information not provided below, please contact our Information Center, either by phone at 703-292-5111, or by email, at info@nsf.gov.

General Information:

THE NATIONAL SCIENCE FOUNDATION is located in the Ballston area of North Arlington, Virginia, between Wilson Boulevard and Fairfax Drive, one block south of the Ballston-Marymount University Metro stop on the Orange Line.

Parking is available in the Ballston Common mall, in the NSF building, and at other area parking lots and garages. Metered parking is also available on the surrounding streets.

Visitors are asked to check at the NSF Reception and Information Conference Center on the first floor to receive a visitor pass, before going on to meetings, appointments, or other business at the NSF.



National Science
Foundation
4201 Wilson Boulevard
Arlington, Virginia 22230

Travel Information:



The NSF building is located a few blocks from Route 66 and Route 50, approximately three miles from downtown Washington, D.C. and is easily accessible from many points of arrival and departure from within the metropolitan D.C. area.

For detailed directions, choose an arrival point from the list below:

On Metro

- From National Airport
- From Dulles Airport
- From BWI Airport
- From Union Station (Amtrak)

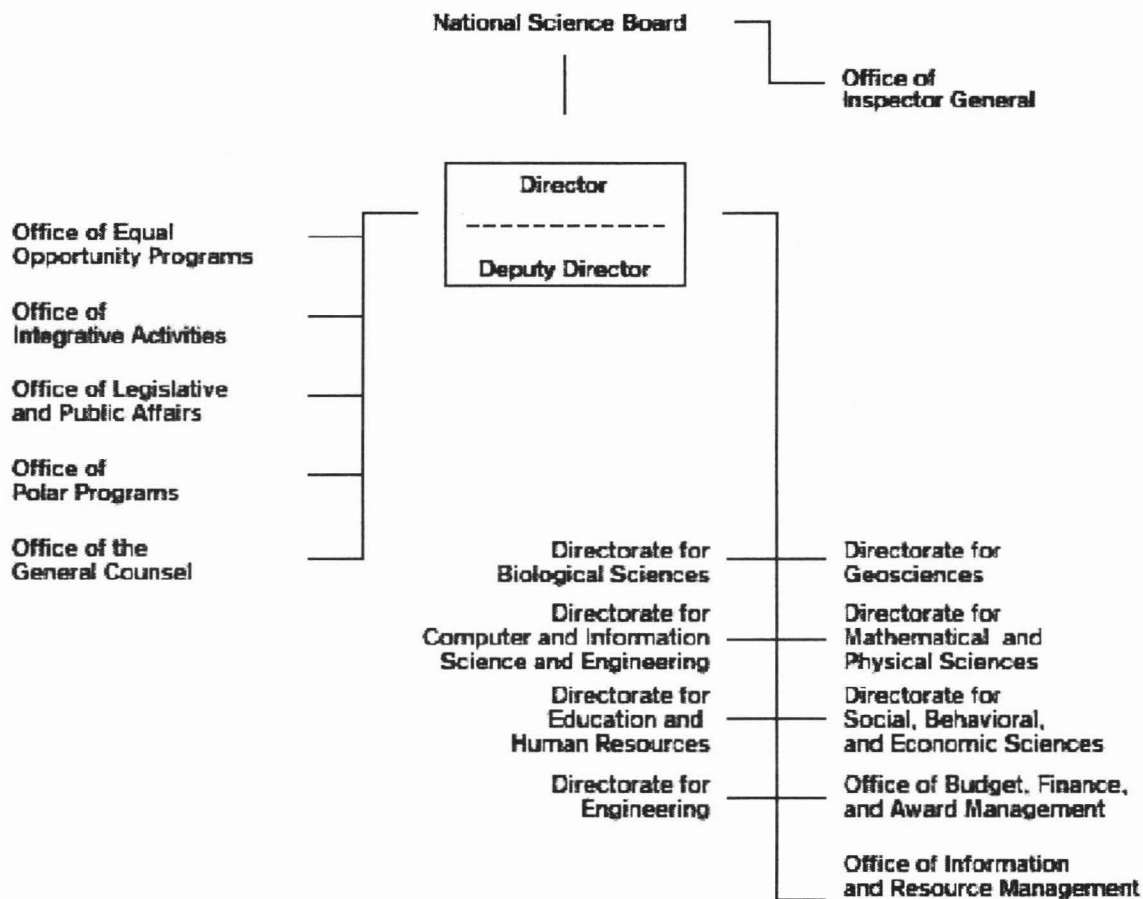
Around NSF:

Visitors to the NSF building will find shopping and food facilities, including those at the Ballston Common (mall) Food Court and in the NSF building itself, are numerous and accessible. Visitors to this area may also be interested in general information for visitors to Washington, D.C., including the current weather information.

The NSF has a small cafeteria (Science Fare) on the second floor, just beyond the guard desk.



Organizational Chart



名称 (和文)	全米科学振興協会 科学政策プログラム
(英文)	The American Association for the Advancement of Science (AAAS, pronounced "Triple-A-S"): Science and Policy Program
(原語)	同上
住 所	1200 New York Avenue NW, Washington, DC 20005 (地図 有・○無)
主 要 業 務	<p>○科学技術・議会センター (1994～)：議会関係者に科学技術関係の問題等、情報をタイムリーに提供するとともに、議会開催期間中は毎月議会の科学技術情報を公表、研究開発予算のインパクトについての地方会議を後援。</p> <p>○科学と倫理・宗教</p> <p>○フェロシップ制度：科学者、技術者を1年間、ワシントンで科学技術政策の立案を支援するために派遣 (10種のコースを用意。Ph.D、あるいは博士と同等の学位、キャリア等を要す。ピアレビューと面接によって選考。2週間の事前研修のほか、1年間に数回セミナーを開催。)</p> <p>○研究開発予算・政策プログラム：連邦予算の中の研究開発予算の傾向を分析するとともに、毎年科学技術政策コロキウムを主催</p> <p>○研究競争プログラム (1996～)：NSFのグラントで活動開始。大学や他の研究開発機関の研究能力強化を支援</p> <p>○科学と人権：科学者、技術者などの学問の自由、権利を保護</p> <p>○科学の自由と責任と法：科学技術に関する倫理的、法的、社会的問題をモニターし、科学と法の関係の改善に取り組む</p>
組 織 構 成	<p>○ AAAS 中の4つの活動 (科学政策プログラム、国際プログラム、教育・人材、プロジェクト 2061) の中の一つ</p> <p>○科学政策プログラム幹部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Albert H. Teich, Director ・ Stephen D. Nelson, Associate Director ・ Amber M. Roderer, Administrative Coordinator <p>(別紙 有・○無)</p>
職員数及び研究スタッフ数	AAAS:134,000人の研究者と、約1千万人の研究者からなる273の団体が加盟。
年 間 予 算	不明

創設時期・沿革等	AAAS : 1848 年創設の民間非営利団体。サイエンスコミュニティと政策策定に大きな影響力を持つ。
コンタクト パーソン	<ul style="list-style-type: none"> ・ Name: Kei Koizumi ・ Title: Director, R&D Budget & Policy Program ・ Tel.: 202-776-0370 ・ Fax: 202-776-0375 ・ E-mail: ・ URL: http://www.aaas.org
その他 特記事項	<p>1998.4 植田企画課長 科学技術政策コロキウム出席</p> <p>1999.5 Dr. Albert H. Teich 氏 (Director) 来訪、所内講演会 開催</p> <p>2001.4 間宮所長 AAAS 訪問</p>

(作成者：科学技術動向研究センター 清貞智会／企画課 藤原志保；
2002 年 3 月)

名称 (和文)	ハーバード大学 ジョン・F・ケネディ行政大学院 科学、技術及び公共政策プログラム
(英文)	Science, Technology and Public Policy Program, John F. Kennedy School of Government, Harvard University
(原語)	同上
住 所	79 Kennedy Street, Cambridge, Massachusetts 02318, USA (地図 ○有・無) http://map.harvard.edu 参照
主 要 業 務	<p>科学、技術及び公共政策 (STPP) プログラムは、ケネディ行政大学院に置かれている各種の研究センターのひとつである Belfer 科学・国際関係研究センター (国際安全保障、環境・資源、科学技術政策等を研究) 内の1プログラム。</p> <p>科学、技術及び公共政策 (STPP) プログラムにおいては、安全保障、持続的成長、経済競争力のための科学技術に公共政策が及ぼす影響や、科学技術政策の策定過程、科学技術が社会にいかに関与を及ぼし、また社会からいかに影響されるかが研究されている。</p> <p>同プログラムの研究プロジェクトとしては；</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力管理プロジェクト ・ハーバード情報インフラ・プロジェクト ・エネルギー技術革新 ・科学技術の法的、政治的、文化的研究 ・競争力、持続的成長及び安全保障のために科学技術政策 ・科学技術政策プロセス <p>がある。</p>
組 織 構 成	(別紙 有・○無)
職員数及び 研究スタッ フ数	<p>職員数、スタッフ数未詳。 (ホームページ上の STPP の Core Faculty and Staff には 23 名の名前があるが専従度は不詳。)</p> <p>STPP のプログラムディレクターは John P. Holden 教授 (環境科学と公共政策)。 Core Faculty and Staff のなかには、科学技術政策研究で著名な、 Harvey Brooks 名誉教授、 Lewis M. Branscomb 名誉教授 Sheila Jasanoff 教授の名が挙げられている。</p>
年 間 予 算	プログラムとしては未詳。ケネディ行政大学院の全体では、2001 年度予算は 95 百万ドル。

創設時期・沿革等	行政大学院は 1936 年発足。 1978 年ジョン・F・ケネディー行政大学院に改称。 ケネディー行政大学院の発足当初より、科学技術政策の研究は活発。
コンタクト パーソン	<ul style="list-style-type: none"> ・ Name: Sheila Jasanoff ・ Title: Professor of Science and Public Policy ・ Tel.: 1-617-495-7902 ・ Fax: ・ E-mail: sheila_jasanoff@harvard.edu URL: http://ksgnotes1.harvard.edu/BCSIA/STPP.nsf/www/home (最近当研究所に来訪している Jasanoff 教授をコンタクトパーソンとした)
その他 特記事項	研究協力覚書を締結。(1989.2.27/2000.2.1 更新) 政策研国際シンポジウム等において、Branscomb 教授の参加ほか交流多数。 1993-95 片岡洋氏 (H 元科技厅入庁、現 OECD 代表部一等書記官) 留学。 1999.6 Jasanoff 教授を招聘し、セミナー実施。 2000.2 柴田所長が訪問 (竹下企画課係員同行)。 2002.2-3 月の国際セミナーに Jasanoff 教授招聘。

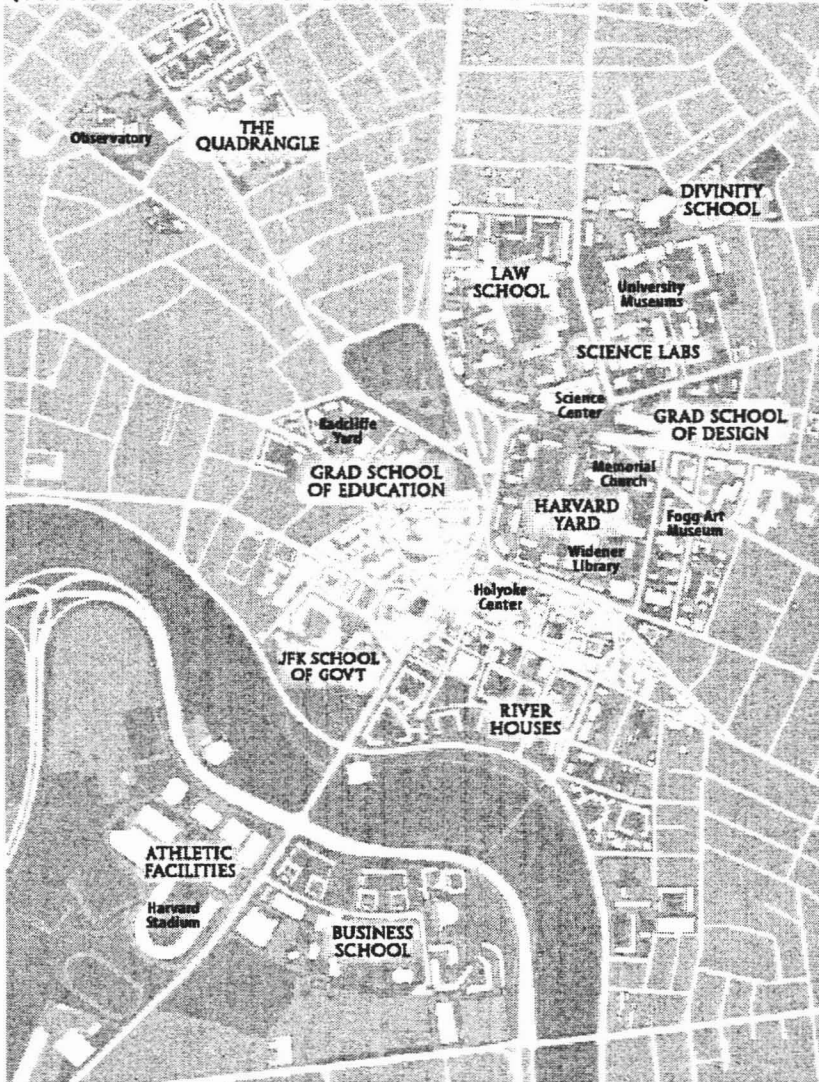
(作成者：総務研究官 下田隆二；2002 年 3 月)



Search the map

Search

(Click on an area to zoom in for a closer view)



Map source files courtesy of Harvard Planning and Real Estate
Text and images are copyright (C)2000 by the President and Fellows of Harvard College and cannot be reproduced without permission.

<http://map.harvard.edu> より

名称 (和文)	ジョージメイソン大学公共政策研究所
(英文)	George Mason University, School of Public Policy
住 所	Fairfax, Virginia 22030-4444 (地図 ○有・無) (別添1)
主 要 業 務	School of Public Policy には 5 つの主要研究テーマがある。 ① 国内行政 ② 地域行政 ③ 国際政治,国際商取引 ④ 科学技術行政： 技術革新やその応用を促進する環境作り・行政のあり方に関する考察検討 ⑤ 文化・価値観： 科学技術の発展による新しいライフスタイル・文化・価値観に関する考察検討
組 織 構 成	School of Public Policy の中には 5 つの Research Center がある。 ① Policy Analysis Center： ビジネスプロセスに関する考察検討 ② Center for Transport Policy and Logistics： 都市の輸送システムに関する、工学的・経営学的・政治学的・経済学的観点からの考察検討。特に、安全性や、情報技術の活用可能性に焦点をあてている。 ③ Center for Science and Technology Policy： 国家間、企業間における技術交流の促進に関する考察検討。具体的には、国家観のハイテク貿易摩擦、開発途上国における技術インフラなどに関する考察検討 ④ Mason Enterprise Center： ハイテク企業に関する考察検討 ⑤ International Center for Applied Studies in Information Technology： 情報技術とそのビジネスへの応用に関する考察検討 (別紙 有・○無)
職員数及び研究スタッフ数	School of Public Policy 全体として 102 名 (うち、スタッフ 17 名：別添2)
年 間 予 算	Unknown
創設時期・沿革等	1990 : The Institute of Public Policy (TIPP) 設立 2000.7 : The Institute of Public Policy (TIPP) から School of Public Policy に名称変更
コンタクトパーソン	・ Name: Don E. Kash ・ Title: Hazel Professor in Public Policy ・ Tel.: 703-993-2278

	<ul style="list-style-type: none"> ・ Fax: 703-993-2284 ・ E-mail: dkash@osfl.gmu.edu ・ URL: http://policy.gmu.edu/ctr/cstp.htm
その他 特記事項	<p>1993 : NISTEP と MOU を締結</p> <p>2000.3 : 柴田 NISTEP 所長（当時）一行の訪問により、MOU を更新</p> <p>2000.6 : Haynes TIPP（当時）所長、NISTEP 訪問</p> <p>2000.9 : Haynes 所長、RESTPOR2000 に出席 Kash 教授、NISTEP 訪問</p> <p>その他、最近帰国した清浦隆氏（H5 科技庁入庁、現立地地域対策室補佐）に引き続き、大島俊之氏が Kash 研究室に留学中。</p>

（作成者：第1研究グループ 竹下貴之；2001年11月）



This is the official site of the George Mason University map. Search through Mason's three campuses--**Arlington**, **Fairfax**, and **Prince William**--in the Northern Virginia/Washington D.C. area.

Note: We are in the process of updating our descriptions of various campus buildings



RELATED LINKS: [Visitors Center](#) | [Virtual Tour](#)
INFO CONTACT: infodesk@gmu.edu
WEB CONTACT: [ElectroPubs](#)
PHONE: (703) 993-1000
UPDATE: 3/26/01

<http://policy.gmu.edu/gen/loc.htm> より

Category Index

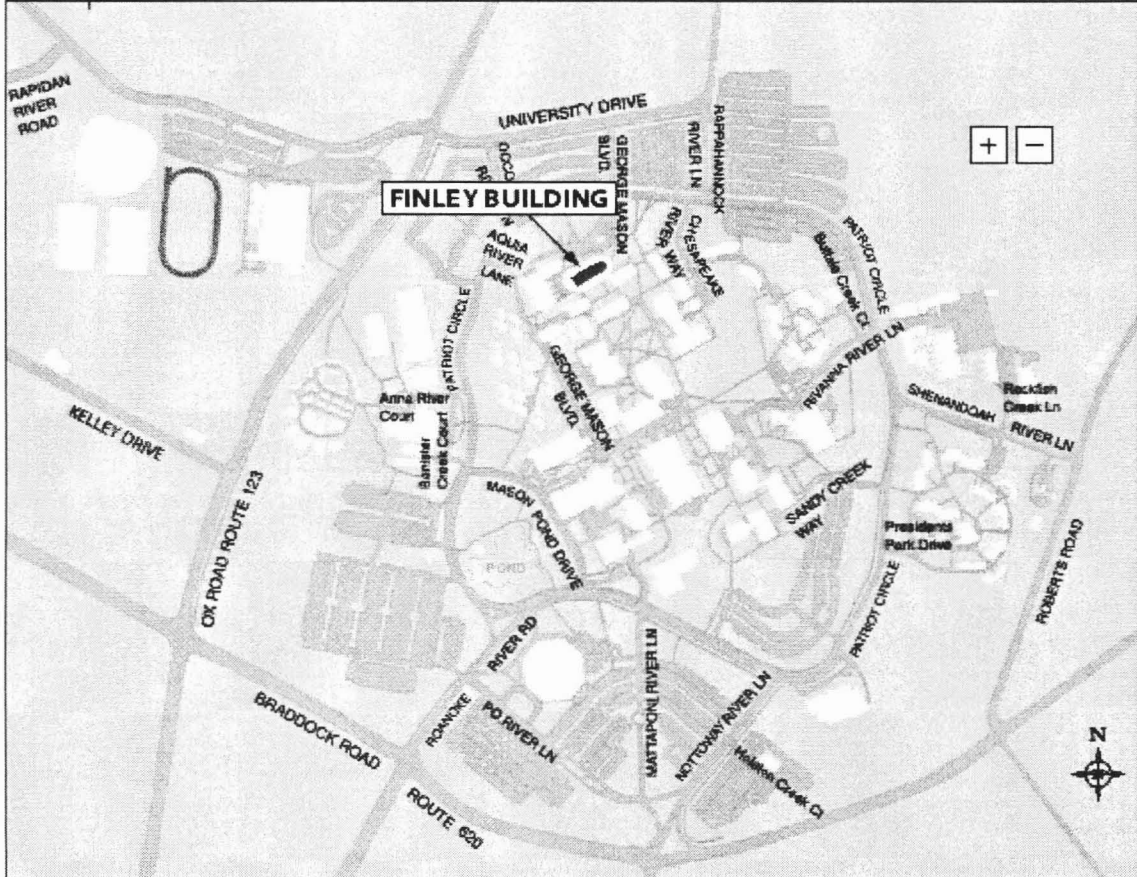


Go Alphabetical Index

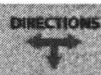


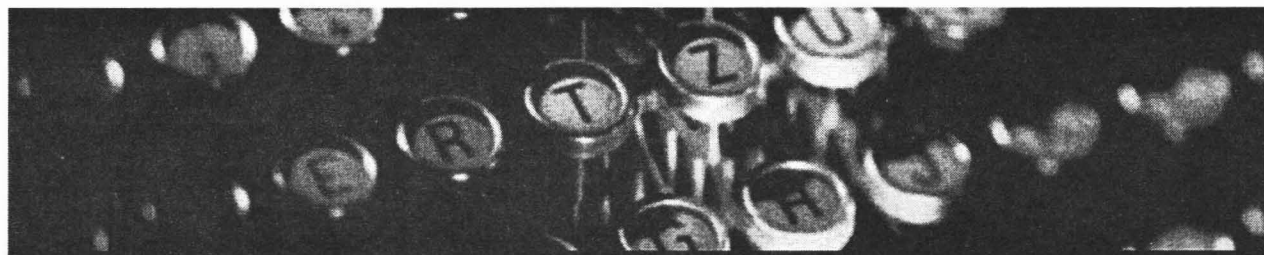
Go

FAIRFAX 拡大図



George Mason University





Alphabetical Directory

ADMINISTRATION

NAME	TITLE	E-MAIL
<u>Kingsley Haynes</u>	Dean	khaynes@osf1.gmu.edu
<u>James Finkelstein</u>	Senior Associate Dean for Administration	jfinkel@osf1.gmu.edu
<u>Roger Stough</u>	Associate Dean	rstough@osf1.gmu.edu
<u>William H. Coester</u>	Administrator	wcoester@gmu.edu
<u>Matthys van Schaik</u>	Assistant Dean for Academic Administration & Associate Director of the International Commerce & Policy Program	mvanscha@gmu.edu
<u>Charles H. Wharton</u>	Assistant Dean of Student Services	cwharton@gmu.edu
<u>Kristine H. McCord</u>	Director of Graduate Admissions	kmccord1@gmu.edu
<u>Christine Coleiro</u>	Assistant Director of Student Services	ccoleiro@gmu.edu
<u>Jennifer Sherwin</u>	Contracts, Training & Development Specialist, Policy Analysis Center	jsherwin@osf1.gmu.edu

FACULTY

NAME	TITLE	E-MAIL
<u>Mark Addleson</u>	Associate Professor, PSOL	<u>maddleso@osf1.gmu.edu</u>
<u>David J. Armor</u>	Professor of Public Policy	<u>darmor@gmu.edu</u>
<u>Ann Baker</u>	Assistant Professor, PSOL	<u>abaker1@gmu.edu</u>
<u>Brien Benson</u>	Senior Fellow, Research Associate Professor, MEC	<u>bbenson@osf1.gmu.edu</u>
<u>Larry Bowen</u>	University Professor of Education and Public Policy	<u>lbowen@osf1.gmu.edu</u>
<u>Kenneth J. Button</u>	Distinguished Visiting Professor of Public Policy	<u>kbutton@osf1.gmu.edu</u>
<u>Min Soo Choi</u>	Visiting Research Scholar	<u>cminsoo@gmu.edu</u>
<u>Arnauld Nicogossian</u>	Visiting Research Scholar	<u>anicogos@gmu.edu</u>
<u>Desmond Dinan</u>	Associate Professor of International Commerce and Public Policy	<u>ddinan@gmu.edu</u>
<u>Stephen Fuller</u>	Professor of Public Policy & Regional Development	<u>sfuller2@osf1.gmu.edu</u>
<u>Jonathan Gifford</u>	Associate Professor of Public Management & Policy, Department of Public and International Affairs Director, M.S., Professional Studies in Transportation Policy, Operations & Logistics, The School of Public Policy	<u>jgifford@gmu.edu</u>
<u>Thomas Gulledege</u>	Professor of Public Policy and Engineering	<u>gulledege@osf1.gmu.edu</u>
<u>Jack High</u>	Professor, PSOL	<u>highdj@mindspring.com</u>
<u>Christopher T. Hill</u>	Professor of Public Policy and Technology	<u>chill2@osf1.gmu.edu</u>
<u>Don Kash</u>	Hazel Professor of Public Policy	<u>dkash@osf1.gmu.edu</u>
<u>Todd LaPorte</u>	Visiting Research Associate Professor	<u>tlaporte@gmu.edu</u>
<u>Seymour Martin Lipset</u>	Hazel Professor of Public Policy	<u>slipset@osf1.gmu.edu</u>
<u>Stuart Malawer</u>	Distinguished Professor of Law & International Trade	<u>stuartmalawer@msn.com</u>
<u>Connie L. McNeely</u>	Associate Professor of Public Policy	<u>cmcneely@gmu.edu</u>
<u>John N. Paden</u>	Robinson Professor of International Studies	<u>jpaden@gmu.edu</u>
<u>Jean Paelinck</u>	Distinguished Visiting Professor of Public Policy	<u>jpaelinc@osf1.gmu.edu</u>
<u>Wayne Perry</u>	Professor of Public Policy and Operations Research	<u>wperry@osf1.gmu.edu</u>
<u>John Petersen</u>	Professor	<u>JEP@gmu.edu</u>
<u>James Pfiffner</u>	Professor, Department of Public and International Affairs	<u>pfiffner@gmu.edu</u>
<u>Kenneth A. Reinert</u>	Associate Professor of Public Policy	<u>kreinert@gmu.edu</u>
<u>G. Chris Rodrigo</u>	Associate Professor	<u>crodrigo@osf1.gmu.edu</u>
<u>Catherine Rudder</u>	Professor of Public Policy	<u>rudder@gmu.edu</u>
<u>Stephen Ruth</u>	Professor, Director, ICASIT	<u>ruth@gmu.edu</u>
<u>Laurie Schintler</u>	Assistant Professor of Public Policy	<u>lschintl@osf1.gmu.edu</u>
<u>Edgar Sibley</u>	University Professor	<u>esibley@gmu.edu</u>
<u>Rainer Sommer</u>	Associate Professor of Public Policy and Enterprise Engineering	<u>rsommer@gmu.edu</u>
<u>Tojo Thatchenkery</u>	Associate Professor, PSOL	<u>joseph@osf1.gmu.edu</u>
<u>Susan J. Tolchin</u>	Professor of Public Policy	<u>tolchin@wpgate.gmu.edu</u>

RESEARCH FACULTY

NAME	TITLE	E-MAIL
Omer Aksu	Research Professor	oaksu@bambam.gmu.edu
Thomas Blau	Research Professor	tblau@gmu.edu
David Davis	Senior Fellow, Information Systems and Peacekeeping	ddavis@osf1.gmu.edu
Marshall Ferrin	Director, International Business Development - MEC	mferrin@gmu.edu
Franco Furger	Research Associate Professor	ffurger@osf1.gmu.edu
Joel Garreau	Research Professor, Washington Post/Edge Cities	garreau@well.com
Paul G. Hall	Research Assistant Professor, MEC	phall@gmu.edu
Frank Hoban	Research Professor, Director of Continuing Career Program, MEC	fhoban@gmu.edu
Nalin Jain	Research Instructor, MEC	njain@gmu.edu
Wallace Johnson	Research Assistant Professor, MEC	wjohnso6@gmu.edu
Jody Keenan	Research Assistant Professor, MEC	jkeenan@gmu.edu
Ivan King	Visiting Adjunct Professor, Program in Peacekeeping Policy, SPP	iking@gmu.edu
Rajendra G. Kulkarni	Assistant Research Scientist, MEC	rkulkarn@osf1.gmu.edu
Pauline Leitch	Director, Business Resource Center, SPP	pleitch@gmu.edu
Mark Maggio	Research Instructor	mmaggio@gmu.edu
Michal McElwain	Director of External Programs	mmcelwai@gmu.edu
Arthur Melmed	Research Professor, Education and Information Technology	amelmed@osf1.gmu.edu
Toshiyuki Oshima	Visiting Professor	toshima@gmu.edu
James Regan	Research Assistant Professor, MEC	jregan@gmu.edu
Carlos Sluzki	Research Instructor	csluzki@gmu.edu
Kathy Wheeler	Research Instructor	kscutt@gmu.edu

ASSOCIATED FACULTY

NAME	TITLE	E-MAIL
Kevin Avruch		kavruch@gmu.edu
Rex Brown	Distinguished Senior Fellow, Decision Sciences	rbrown@osf1.gmu.edu
Timothy Conlan	Associate Professor, Department of Public and International Affairs	tconlan@wpgate.gmu.edu
George Cook	Distinguished Senior Fellow, MEC	hcook1@osf1.gmu.edu
Thomas Dietz	Professor of Sociology, Department of Sociology	TDietzVT@aol.com
George Donohue	FAA Visiting Senior Research Professor, MEC	gdonohue@gmu.edu
Randolph Flood	Assistant Professor	rflood@gmu.edu
Francis Fukuyama	Professor	ffukuyam@osf1.gmu.edu
J. Thomas Hennessey, Jr.	Research Assistant Professor	thenness@osf1.gmu.edu
Robert Perito	Professor	rperito@gmu.edu
MG Indar Jit Rikhye	Research Professor, UN Peacekeeping	irikhye@ralph.gmu.edu
George Thompson		gthompson@npwdc.com
Eugene Visco	Professor	genevisco@attglobal.net

STAFF

NAME	TITLE	E-MAIL
Jennifer Arnold	Senior Program Support	jleonard@gmu.edu
Darcelle Campbell	Administrative Assistant, International Commerce & Policy program	dcampbe3@gmu.edu
Jessica Cogen	Administrative Assistant, SPP	jcogen@gmu.edu
Tim Crean	Administrative Assistant, Mason Enterprise Center, SPP	tcrean@gmu.edu
Heather O. Gaillard	Associate Director of Career Services and Alumni Relations	hgaillar@gmu.edu
Mary Gray	Grants Administrator, MEC	mgray@gmu.edu
Christina M. Green	Executive Assistant to the Director of Mason Enterprise Center	cgreen5@osf1.gmu.edu
Xintong Lin	Webmaster, SPP	xlin@gmu.edu
M. Susan McClure	Administrative Assistant to the Dean, SPP	mmcclure@gmu.edu
Mary McGuire	Office Manager, PTAP, SPP	mmcguir3@gmu.edu
David Melia	Manager, ICASIT	dmelia@gmu.edu
Russell Miller	Business Manager, Entrepreneurial Services Group, SPP	rmiller5@gmu.edu
Denise Napoliello	Administrative and Program Specialist	DNAPOLIE@WPGATE.GMU.EDU
John Sheahan	Administrator, Continuing Career Program, MEC	jsheahan@gmu.edu
Dana Slaughter	Training Coordinator, NVSBDC, Mason Enterprise Center, SPP	dslaugh1@gmu.edu
Kathleen M Vitkus	Office Administrator	kvitkus@gmu.edu
Darby Wiggins	Master's Student Services Coordinator	dwiggin3@gmu.edu

Last updated : Saturday, March 16, 2002 03:28:11

<http://policy.gmu.edu/fac/f-dir-a.htm> より

名称 (和文)	マサチューセッツ工科大学 技術と政策プログラム
(英文)	MIT Technology and Policy Program (TPP)
(原語)	同上
住 所	77 Massachusetts Avenue, Rm. E40-215, Cambridge, MA 02139 (地図 有・○無) 立地点については以下の記述あり The Program is housed at the east end of campus and adjacent to Kendall Square in Building E40
主 要 業 務	大学院における教育と研究 1) 教育 重要な技術に関する問題においてリーダーとなりうるよう、技術と政策に両面について（企業や政府機関等での研修を通じ）実践的な教育を行う。技術革新の成果を社会へ活用していくという MIT の役割に対し最も貢献している。 修士課程 (Master of Science Program) 博士課程 (Doctoral program in Technology, Management, and Policy) 理工系と法学、経済学、社会学等を含む分野横断的な教育を行う。 卒業生は企業や政府機関において、技術政策の専門家として活躍している。 2) 研究 研究は3つの方向性に基づき実施する。まず、大規模システムにおける問題解決型の研究、次に同じくその方法論について、最後に企業や政府における意思決定システムをより良くするための研究である。
組 織 構 成	TPP Faculty Council (運営会議) Admissions & Financial Support Committee Academic Advising Support Committee Curriculum Committee Thesis Review Committee TMP Committee (別紙 有・○無)

職員数及び 研究スタッフ 数	(現時点で不明)
年間予算	(現時点で不明)
創設時期・沿 革等	(歴史についてはHP改定中 掲載次第加筆)
コンタクト パーソン	<ul style="list-style-type: none"> ・ Name: ・ Title: ・ Tel.: +1.617.253.7693 ・ Fax: +1.617.253.7568 ・ E-mail: tpp@mit.edu ・ URL: http://tppserver@mit.edu/
その他 特記事項	<p>1989.6 Neufville 所長(当時)と川崎所長(当時)の間で MOU 署名(期間設定せず)。</p> <p>1995-96 坂本修一氏(H4 科技厅入庁、現国際統括官補佐)留学</p>

(作成者：科学技術動向研究センター 横田慎二；2001年12月)

名称 (和文)	科学・政策・業績センター
(英文)	Center for Science, Policy, & Outcomes (CSPO)
(原語)	同上
住 所	1 Thomas Circle, NW, Suite 1075, Washington, DC 20005 (地図 有・○無)
主 要 業 務	<p>(主なプロジェクト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 異なった研究形態からの選択 <ul style="list-style-type: none"> ・新科学技術政策 ・科学技術とその運命 ・保健研究について社会的成果のマッピング (Societal outcomes map for health research) ・知識の不平等に対する理解 ○ 必要とされる知識形成に調和した研究プログラムの設計 <ul style="list-style-type: none"> ・地球システムの研究による社会的利益の抽出 ・公共政策の予測 ・結果として起こった予期せぬ問題に対する研究計画 ○ 新しい知識とイノベーションによる利益の増大 <ul style="list-style-type: none"> ・ナノテクノロジーと社会 ・公共サービスにおける基礎研究 ・科学と社会的価値 ・キャリアにおける構造的な障害 (教育について) ・科学者、意志決定者などの数を増やすために教育プログラムを設定 ・ポスドクの研究員、大学院のリサーチアシスタント、学生インターンに対し、政策形成過程を直接センターで体験させるプログラムを開始。 ・現在、科学技術分野で働く大学院生に対して、政治活動に直接参画する、あるいは講義、セミナーなどを通じて社会の中で科学を学ぶためのコースを開発中。
組 織 構 成	<ul style="list-style-type: none"> ○ センター長：Chair <ul style="list-style-type: none"> ・ Michael M. Crow 氏 (コロンビア大) ○ 事務局：Management Committee <ul style="list-style-type: none"> ・ Barry L. Bozeman 氏 (ジョージア工科大)、Daniel Sarewitz 氏 (コロンビア大)

	<p>○ On-Site and Collaborating Faculty and Staff (25名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Lewis M. Branscomb 氏 (ハーバード大)、Richard Nelson 氏 (コロンビア大) 他 <p>○ 2つの諮問委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Board of Visitors (Neal Lane 氏 (前大統領科学顧問)、Albert H. Teich 氏 (AAAS, S&T Program ディレクター) 他 16名) ・ Academic Advisory Board (Diana Hicks 氏、Don E. Cash 氏他 16名) <p>(別紙 有・○無)</p>
職員数及び研究スタッフ数	不明
年間予算	不明
創設時期・沿革等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1998年に組織の概要が示され、1999年に活動開始。設立当時は、中堅の研究者、客員研究官、ポスドク、インターンの学生などが中心。 ・ センターのスタッフは NSF、National Research Council、NASA 等の機関の組織に入っていたり、助言を求められたりしている。
コンタクトパーソン	<ul style="list-style-type: none"> ・ Name: ・ Title: ・ Tel.: 202-776-0370 ・ Fax: 202-776-0375 ・ E-mail: cspo@cspo.org ・ URL: http://www.cspo.org (作成中)
その他特記事項	2002年3月4日、RISTEX-NISTEP 合同セミナーでの David H. Guston 氏(米国 ニュージャージー州・ラトガース大学)の講演資料をもとに作成

(作成者：企画課 藤原 志保；2002年3月)

名称 (和文)	世界技術評価センター
(英文)	World Technology Evaluation Center, Inc.
(原語)	同上
住 所	4501, North Charles Street, Baltimore, Maryland, USA (地図 有・○無)
主 要 業 務	・日本および世界各国の科学技術動向調査 (添付資料: WTEC 報告書一覧)
組 織 構 成	(別紙 有・○無)
職員数及び 研究スタッ フ数	不明 WTEC の主要メンバーは以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Mr. R. D. Shelton, President ・ Mr. Geoffrey Holdridge, Vice President ・ Dr. Y.T. Chien, Vice President ・ Mr. Bob Williams, Director of Finance ・ Mr. Roan Horning, Director of Information Technologies ・ Ms. Laura Pearson, Director of Administration ・ Mr. Stephen Gould, Project Manager ・ Ms. Galina Paikouch, Office Manager
年 間 予 算	不明
創設時期・沿 革等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国商務省が中心となり日本および世界各国科学技術に関する研究開発動向を網羅的に調査している。 ・ LOYOLA というメリーランド州の小さな College の付置研究所で、NSF, DARPA, AFOSR, ONR, ARO, NASA, NIST, DOE, NIH, など錚々たる機関が Fund のスポンサーとして連なっている。 ・ 1989 年設立当初は、JTEC (Japan Technology Evaluation Center) と称し、主に日本の科学技術開発動向を調査する目的で運営されていたが、1998 年にその役割を終えたとして現在の WTEC に改称された。 ・ ごく最近では、2000 年から各国のナノテクノロジーおよびヒト組織工学に関する網羅的な調査を行い、2002 年 1 月に Final Report を発行している。
コンタクト パーソン	Name: Keiji Morokuma Title: William Henry Emerson Professor of Chemistry Director, Cherry L. Emerson Center for Scientific Computation Tel.: (404) 727-2180

	<p>Fax: (404) 727-6586</p> <p>E-mail: morokuma@emory.edu</p> <p>URL: http://www.wtec.org/</p>
<p>その他 特記事項</p>	<p>ナノテクノロジーの調査には、エモリー大学諸熊圭治教授も評価委員として参加しており、日本の大学や産業界の現地調査に来日している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果はウェブ上で公開されており、調査もオープンで行われている。 ・諸熊教授によると、日本の企業にも調査協力を要請したが、企業秘密を理由に数社から拒絶されたとの由。

(作成者：第1調査研究グループ 鈴木 研一；2002年3月)

その他参考資料

- ・ WTEC Panel Report on
 - Applications of Molecular and Materials Modeling
 - Tissue Engineering Research
- ・ Microsystems Research in the United States A Critical Overview



WTEC, Inc.

World Technology Evaluation Center, Inc.

- WTEC Study on Microelectromechanical Systems in Japan.
 - **NEW** The panel's viewgraphs from the workshop on January 18, 2002.
 - Volume of site reports from the panel's visit to Japan in November 2001
- **NEW** The final report from the Loyola/WTEC study on Tissue Engineering Research is available.
- **NEW** The final report from the Loyola/WTEC study on Applying Molecular and Materials Modeling is available.
- The WTEC study on Spin Electronics
 - The re-scheduled WTEC Workshop on Spin Electronics was held on Friday, November 2, 2001. The viewgraphs from this workshop are available.
 - Spin Electronics: Highlights of Recent U.S. Research and Development Activities in Spin Electronics (handout provided to European and Japanese researchers who hosted the panel's site visits in the spring and summer of 2001)
- [Click here for previous WTEC reports available on this server.](#)

WTEC is the nation's leading organization that conducts international technology assessments. During the 1990s, it was called the World Technology (WTEC) Division of Loyola College. In 2001, WTEC was spun off into a separate (Delaware) non-profit corporation. These spin off plans are described at <http://itri.loyola.edu/itri>.

WTEC, Inc. continues with the same staff:

- Dr. R. D. Shelton, President
- Mr. Geoffrey Holdridge, Vice President
- Dr. Y.T. Chien, Vice President
- Mr. Bob Williams, Director of Finance
- Mr. Roan Horning, Director of Information Technologies
- Ms. Laura Pearson, Director of Administration
- Mr. Stephen Gould, Project Manager
- Ms. Galina Paikouch, Office Manager

As a non-profit, WTEC, Inc. is eligible for grants and donations. It has applied for IRS 501 (c) 3. status in 2001.

<http://www.wtec.org/>より

Reports Available on This Server

We are continually working to improve the reports, and to provide more reports on the Web Server. Some reports can also be found in Adobe® Acrobat® format. All WTEC Program Reports (more than 50 studies covering various fields of international S&T) are available in hard copy from the National Technical Information Service (NTIS). In addition, some older reports can be found in plain text and/or Word format.

To reserve a copy of the final reports in hardcopy or CDROM media at pre-publication prices, please send email to reports@itri.loyola.edu. For more information on these studies, please send email to www@itri.loyola.edu

- **Environmentally Benign Manufacturing (2001)**
| Final Report in PDF Format |
- **Wireless Technologies and Information Networks (2000)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **MEMS and Microsystems in Europe (2000)**
| Table of Contents |
- **The Future of Data Storage Technologies (1999)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents | PDF Format |
- **Japan's Key Technology Center Program (1999)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents | PDF Format |
- **Digital Information Organization in Japan (1999)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents | PDF Format |
- **Nanostructure Science and Technology: R&D Status and Trends in Nanoparticles, Nanostructured Materials, and Nanodevices (1998)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents | PDF Format |
- **Global Satellite Communications Technology and Systems (1998)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents | PDF Format |
- **Use of Composite Materials in Civil Infrastructure in Japan (1998)**
| Abstract | Table of Contents | PDF Format |
- **Mechatronics in Japan: a Trip Report (1998)**
| Abstract | Table of Contents |
- **Annual Report for 1997/1998**
| Abstract | Table of Contents |
- **Electronic Applications of Superconductivity in Japan (1998)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **R&D Status and Trends in Nanoparticles, Nanostructured Materials, and Nanodevices in the United States (1998)**

| Table of Contents |

- **Russian Research and Development on Nanoparticles and Nanostructured Materials (1997)**
| PDF format |
- **Power Applications of Superconductivity (1997)**
| Executive Summary | Table of Contents |
- **Electronics Manufacturing in the Pacific Rim (1997)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Advanced Casting Technologies in Japan and Europe (1997)**
| Executive Summary | Table of Contents |
- **Rapid Prototyping in Europe and Japan (1997)**
| Executive Summary | Table of Contents |
- **The Korean Electronics Industry (1997)**
| Executive Summary |
- **Japan's ERATO and PRESTO Basic Research Programs (1996)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Submersibles and Marine Technologies In Russia's Far East and Siberia (1996)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Human-Computer Interaction Technologies in Japan (1996)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Optoelectronics in Japan and the United States (1996)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Electronic Manufacturing and Packaging in Japan (1995)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Biodegradable Polymers and Plastics in Japan (1995)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Display Technologies in Russia, Ukraine, and Belarus (1994)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Microelectromechanical Systems in Japan (1994)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Research Submersibles and Undersea Technologies in Russia, Ukraine, and Western Europe (1994)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Advanced Manufacturing Technology for Polymer Composite Structures In Japan (1994)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **The Annual Report and Program Summary for 1993/94 (1994)**
| Table of Contents |

- **Knowledge-Based Systems in Japan (1993)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Satellite Communications Systems and Technology (1993)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |
- **Display Technologies in Japan (1992)**
| Abstract | Executive Summary | Table of Contents |

We welcome comments on all reports to www@itri.loyola.edu. Please fill in our Feedback Form.



Copyright 1992-2000

| [Introduction to WTEC](#) | [Reports On-line](#) | [Initiatives](#) | [Studies in Progress](#) | [Feedback](#) | [Search](#) | [The Staff](#) |

WTEC Hyper-Librarian, International Technology Research Institute, Loyola College in Maryland

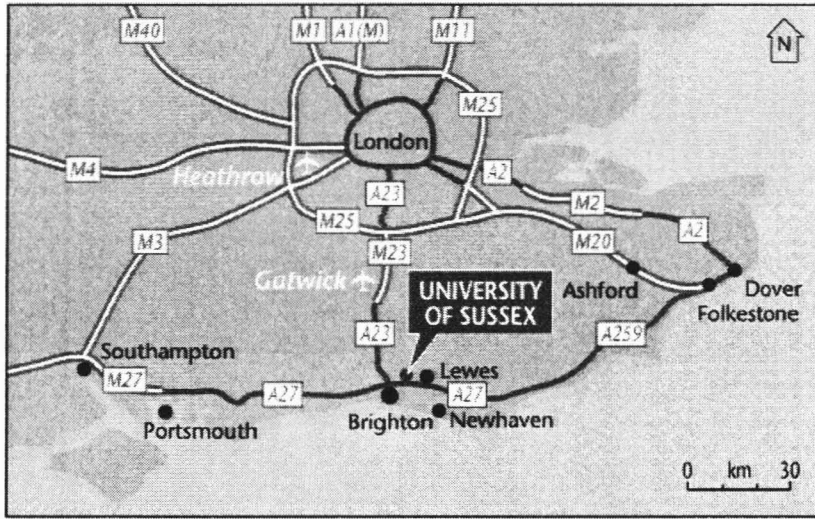
名称 (和文)	未来技術研究所
(英文)	Institute for Prospective Technological Studies (IPTS)
(原語)	
住 所	W.T.C. Isla de la Cartuja, E-41092 Sevilla, Spain (地図 有・○無)
主 要 業 務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 任務は、技術発展とその応用に関する情報を収集、分析し、加工してヨーロッパの政策決定者に伝えること。 ・ 科学技術の発展を見極めることが重要な技術的事項を取り上げ、先端技術の視点と社会経済的、政策的視点を結びつけた分析を実施。 (テーマ) 未来予測プログラム、地域の科学技術連携、情報社会の構築、ライフサイエンスと社会へのインパクト、環境と社会、エネルギーと持続可能性、等 ・ 主なクライアントは、欧州委員会及び欧州議会。 ・ EU 圏内の大学、研究所等を主要メンバーとする ESTO Network を運営、クライアントからの広範な要請に対応。
組 織 構 成	4 ユニット構成 (Technology for Sustainable Development / Technology, Employment, Competitiveness, and Society / Life Science & Information and Communications Technology / Management Support) (別紙 有・○無)
職員数及び 研究スタッフ 数	107 名 (1999 年 12 月) (内訳) 研究スタッフ 69 名 (うちパーマネント 25) サポートスタッフ 38 名
年 間 予 算	組織予算は、1200 万ユーロ (1999 年度) 別途、競争的資金を獲得 (2000 年度は 220 万ユーロ(組織予算の 18% に相当))
創設時期・沿革等	欧州委員会 DG の Joint Research Center 下の研究所。 科学技術の発展が政策決定プロセスにおいてますます重要な位置を占めることになったことから、科学技術と社会の橋渡しをすることを目的として、1994 年に設立。
コンタクト パーソン	<ul style="list-style-type: none"> ・ Name: Gustavo Fahrehkrog ・ Title: Acting Head of Unit ・ Tel.: +34-95-4488-361 ・ Fax: +34-95-4488-359 ・ E-mail: gustavo.fahrenkrog@jrc.es ・ URL: http://www.jrc.es
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2001.3 永野総務研究官 IPTS 訪問 ・ 2002.2 Dr. Jean-Marie Cadiou 所長来訪、国際シンポジウムでご講演いただくともに、所内国際セミナーを開催

(作成者：科学技術動向研究センター 横尾淑子；2001 年 12 月)

名称 (和文)	英国サセックス大学 科学政策研究ユニット
(英文)	Science and Technology Policy Research Unit (SPRU), University of Sussex, Brighton
(原文)	同上
住 所	Mantell Building, Falmer BN1 9RF Brighton, UK (地図 ○有・無) http://www.sussex.ac.uk/press_office/location/ 参照
主 要 業 務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術とイノベーション(STI)政策及び STI マネジメント に関して世界をリードする研究機関 ・ 96年の英国の統一研究評価 (RAE) において Grade 5 (上位 から2番目) の高い評価を獲得 <p><主要目的></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) STI の開発及び社会へのインパクトに関するスタンダード を学術的に研究すること (2) 世界経済における STI の役割に関し、経験に基づきデータ、 手法、コンセプト、理論などを新しく研究すること (3) 大学院生のトレーニング (理学修士、学術修士、学術博士) (4) 将来の STI の諸課題を理解し、対応すること (5) 英国及び世界の政策立案者に対し、科学技術開発に係る経済 的・社会的・政治的諸課題につきアドバイスを行うこと (6) 競争力強化に向けた STI のマネージに必要なツール・技術 を企業と共同で開発すること <p><主な研究テーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業界・企業における技術・イノベーション (イノバティブな企業の戦略・構造・ダイナミクス、複合生産 システムにおけるイノベーション、国防産業における技術変 革、バイオ技術における研究・イノベーション、内生環境で のイノベーション) ・ 科学技術と開発 (研究システムの再編成、市場主義移行経済 の技術・イノベーション、アジアの工業化における技術ダイ ナミクス、技術と社会的結合、開発のための情報技術) ・ エネルギー・環境政策 (技術と自由化、エネルギー市場と規制、 エネルギーの持続性保持、環境政策の新たなアプローチ、環 境・消費者保全：政策プロセスの分析) ・ 技術統治と規制 (不拡散体制における技術管理、情報・通信 技術政策、情報化社会の政治学と経済学)
組 織 構 成	<p><近年設立された3研究センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンプレックス生産システム・イノベーションセンター (CoPS)：高付加価値の複合工業製品・システムに係る知識 の拡大を目的として 1996 年設立 (英経済・社会研究会議の コア・ファンディングによる：Brighton 大学イノベーショ ン・マネジメント研究センター及び産業界との共同プログラ ム)

	<ul style="list-style-type: none"> ・イノバティブ製造技術講座 (IMI) : 建設セクター等のプロジェクト型産業におけるパフォーマンス改善を目的とした研究プログラム (英国の大手建設会社、主要アカデミー等の協力により 1996 年設立) ・情報・ネットワークと知識 (INK) : 情報・通信技術システム及び知識体制が社会・経済・文化生活の再構築に果たす役割を分析 (先進国・途上国の経験に即した研究の組合せにより、イノバティブな知識ベースの開発を進める社会が直面する諸課題に関する理論・実践的対応の発展、社会・経済的利益のための政策・ビジネス面のプラクティス向上を目指す) <p>(別紙 有・○無)</p> <p>http://www.sussex.ac.uk/spru/contact/staff.cfm 参照</p>
職員数及び研究スタッフ数／主要教育プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者数 40 名 (社会科学・自然科学・工学の多様なバックグラウンドを有する学際研究チーム) ・理学修士課程 (科学技術政策及び技術革新マネジメントの 2 コースから構成) : 毎年約 40 名受入れ (1 年) ・学術修士・博士課程 : 毎年 15~20 名受入れ ・TAGS プログラム (自由に授業と研究を組み合わせて履修するコース) : 毎年若干名受入れ <p>→合計約 100 人の学生が常時在籍 (出身学部 of 制約なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究スタッフ 1 名当たりの学生数は平均 2.5 名
年間予算	非営利機関 : 研究会議・財団からの助成金、政府・産業界・国際機関<EU、OECD、世銀、国連機関>からの委託研究、教育により予算確保 (財源の多様性による中立性・公平性を重視)
創設時期	1970 年代
コンタクトパーソン	<ul style="list-style-type: none"> ・ Name: M.E. Winder ・ Tel.: +44-1273-686758 ・ Fax: +44-1273-685865 ・ E-mail: M.E.Winder@sussex.ac.uk ・ URL: http://www.sussex.ac.uk/spru/
その他特記事項	<p>1988.12 前 SPRU 研究員・馬場靖憲氏を第 1 研究グループ研究員として受入れ</p> <p>1989.5 研究協力覚書締結</p> <p>1990.6-1991.8 SPRU 講師 Dr Diana Hicks を STA フェロー研究員として第 1 研究グループに受入れ</p> <p>1999.10-2000.9 赤池伸一氏 (H4 科技厅入庁、現国際交流官付補佐) が SPRU に留学</p>

(作成者 : 企画課 斎藤尚樹 / 藤原志保 ; 2002 年 2 月)



http://www.sussex.ac.uk/press_office/location/より

* スタッフリストは <http://www.sussex.ac.uk/spru/contact/staff.cfm> 参照

名称 (和文)	マンチェスター大学大学院 工学・科学技術政策研究所
(英文)	POLICY RESEARCH IN ENGINEERING, SCIENCE & TECHNOLOGY (PREST)
(原文)	同上
住 所	Oxford Road, Manchester M13 9PL, UK (地図 ○有・無)
	<p>1.研究水準、教育水準</p> <p>(1)研究評価5(2001年):5*に次ぐ最高級評価。「研究成果の半数が国際的に卓越した水準にあり、残りの活動のほぼ全てが英国国内最高水準」であることを証明。</p> <p>(2)ティーチング・クオリティ・アセスメント(教育の質的評価)(2001年)は最高評価</p> <p>2.研究領域</p> <p>(1)イノベーション、技術マネジメント研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リサーチ・カウンシルの継続的なグラントにより、長期的研究プログラムを構築 ○技術変化の動的視点や競争状況における技術の発展とユーザーの要求の相互作用を重視。 ○情報通信技術のイノベーション、情報社会の変遷、環境問題に係る生産・プロセス・サービス・政策イノベーション等、特定領域の集中的研究を実施。 ○サービス部門におけるイノベーション研究。イノベーション・システム、政策研究を通じての国家状況の考察。 ○PREST スタッフは、社会経済カウンシルが設立した ESRC Centre for Research on Innovation & Competition (CRIC) (技術革新・競争研究センター) のプログラムに密接に参加。サービス部門におけるイノベーション・システム、イノベーション研究に参加。 <p>(2)科学技術政策研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○構造的、文化的、国際的な協力に着目した活動を通じて、科学技術政策の形成から、科学技術とガバナンスの関係についての調査活動に至るまで、広範な研究活動を実施。 <p>(3)技術予測研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技術及び政策の発展を予測する観点からの研究 ○英国及び海外の技術予測活動の設計 ○科学技術の特定の領域における開発戦略、特定技術の予測研究、テクノロジーアセスメント等の手法の開発・評価等 <p>(4)研究評価研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○科学技術政策・プログラムの評価は PREST の研究活動の中心の一つ。

	<p>○政策立案者は、競合する領域間の資源配分や貨幣価値への換算の決定の基礎となる情報を必要としており、研究やイノベーションの誘導、評価手法の開発・設計、政策・プログラムの効率性、効果性、適切性の確立を目的とするシステムの実施を含む領域を研究。</p> <p>○EUREKA 計画、JET、ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム(HFSP)の研究評価等の実績。</p> <p>3. 教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界各国より 45 人以上の大学院学生を抱える。 1. メインコース <ul style="list-style-type: none"> ①MSc in Technical Change & industrial Strategy 科学技術政策研究及び技術マネジメントに関するハイレベルの教育を提供する 1 年制トートコース。英国社会経済カウンシルの奨学生対象で、最新の教育評価 (QQA) でもその質の高さが証明されている。 ②Doctoral Programme in Science & Technology Policy 科学技術政策の博士課程で、30 人の学生が活動。 2. エグゼクティブコース <ul style="list-style-type: none"> ① Manchester Executive Programme in Technology Management 経験あるマネージャーに対するトレーニングプログラムを Manchester Federal School of Business and Management を通じて提供。 3. ショートコース <ul style="list-style-type: none"> ①研究評価、技術予測 (集中コース) ②「技術政策：キーイシューと戦略」 ブリティッシュ・カウンシルのために PREST が運営しているコース。英国及び各国の学者、リサーチ・カウンシル、政府高官が参加。 ③その他、各機関の要請に応じたショートコースを提供。(例えば近年では東南アジアの電力会社に提供。)
組織構成	<p>○PREST の大きな特色の一つは、欧州最大のマネジメント及びビジネス (特に科学技術・イノベーション研究) における学問的専門家の集合体である Manchester Federal School of Business and Management の構成メンバーであり、UMIST (マンチェスター工科大学) マネジメントスクールやマンチェスタービジネススクール(MBS)等、研究活動、その他での関係が深い点である。</p> <p>○特に、ESRC (社会経済カウンシル) が設立した ESRC</p>

	<p>Centre for Research on Innovation & Competition (CRIC) (技術革新・競争研究センター) が設置され、緊密な研究協力が進められており、2002 年夏には、PREST、CRIC 等が新しい施設に移転される予定であり、更なる活動の緊密化が図られる。</p> <p>○学生は PREST に限らず、これら広範な研究活動の中で、自らの研究指導、研究リソースを享受することができる。</p>
職員数及び研究スタッフ数	・常勤スタッフ数：約 20 人
年間予算	<p>○PREST の年間研究費は約 100 万ポンド</p> <p>○また CRIC の研究費として更に 50 万ポンドを有する。</p> <p>○主たる資金源はリサーチ・カウンシル、英国政府、EU 及び他国政府である。</p> <p>○この他、企業のシニアな経営者からなる「技術戦略フォーラム」を運営。</p>
創設時期	<p>○学部創設以前よりマンチェスター大学には、英国の科学政策研究の創始者たちによる活動が行われていたが、1965 年に現在の PREST 前身機関として学部 (liberal Studies in Science) が設置された。</p> <p>○その後、1977 年、マンチェスター大学社会科学・法学系の研究機関として PREST が設立され、1990 年、学部機能を吸収し教育を引継ぐ形で現在に至っている。</p>
コンタクトパーソン	<p>・ Name: Lesley Price</p> <p>・ Tel.: +44-161-275-5921</p> <p>・ Fax: +44-161-273-1123</p> <p>・ E-mail:</p> <p>・ URL: http://les.man.ac.uk/prest/</p>
その他特記事項	<p>1. 我が国の機関との関係</p> <p>○科学技術政策研究所との関係</p> <p>過去 3 人のフェローを科学技術政策研究所に派遣している他、協力協定を締結。また、PREST の所長は過去 2 回、科学技術政策研究所の機関評価を依頼されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1992.4～1993.9 Timothy Eric Ray 氏 (1 研) ・ 1994.8～1996.8 Brendan G. Barker 氏 (1 研) ・ 1997.12～1998.11 John Mark Boden 氏 (1 研) ・ 1998.3 Dr. Luke Georghiou 所長来訪、当研究所の機関評価を実施 ・ 1998.10 Dr. Luke Georghiou 所長来訪 (10 周年記念カンファレンス)。 ・ 2000.3 Dr. Luke Georghiou 所長来訪、機関評価フォローアップ <p>○東京大学、政策研究大学院大学との関係があり、また英国内においては JETRO、JSPS との関係がある。また、通産</p>

省「次世代ロボティクスプログラム」の評価を三菱総研と共同で実施。

2. ブリティッシュ・カウンシルとの関係

○ブリティッシュ・カウンシル東京の前科学担当官を PREST より派遣。(現在、ブリティッシュ・カウンシル・ソウルの科学担当官)

○この他、EU 諸国、その他にもスタッフを派遣。

3. 留学生の受け入れ実績

○世界 70 カ国以上からの外国人留学生の受入実績があり文部科学省(旧文部省、旧科学技術庁)、日本の民間企業等から正規留学生、研究生を受入れ。

・1996-97 松澤孝明(H 元科技庁入庁)が留学、修士号取得

4. その他

○マンチェスターはもともと産業革命の中心で、現在は4つの総合大学を有する欧州有数の大学都市。

○中でもマンチェスター大学は1851年設立の英国で最も歴史のある旧制大学(通称「赤レンガ大学」群)で、過去のノーベル賞に関係し、最新の研究評価においてもほとんどが最高水準の5を受けるなど高い評価を得ている。

○特に、ライフサイエンス、物理等において高い水準にあり、またインキュベーター、サイエンスパーク等、研究の商業化の点でも英国の先駆的地位を占めている。このような背景が、科学技術政策研究の中心地としての土壌にある。

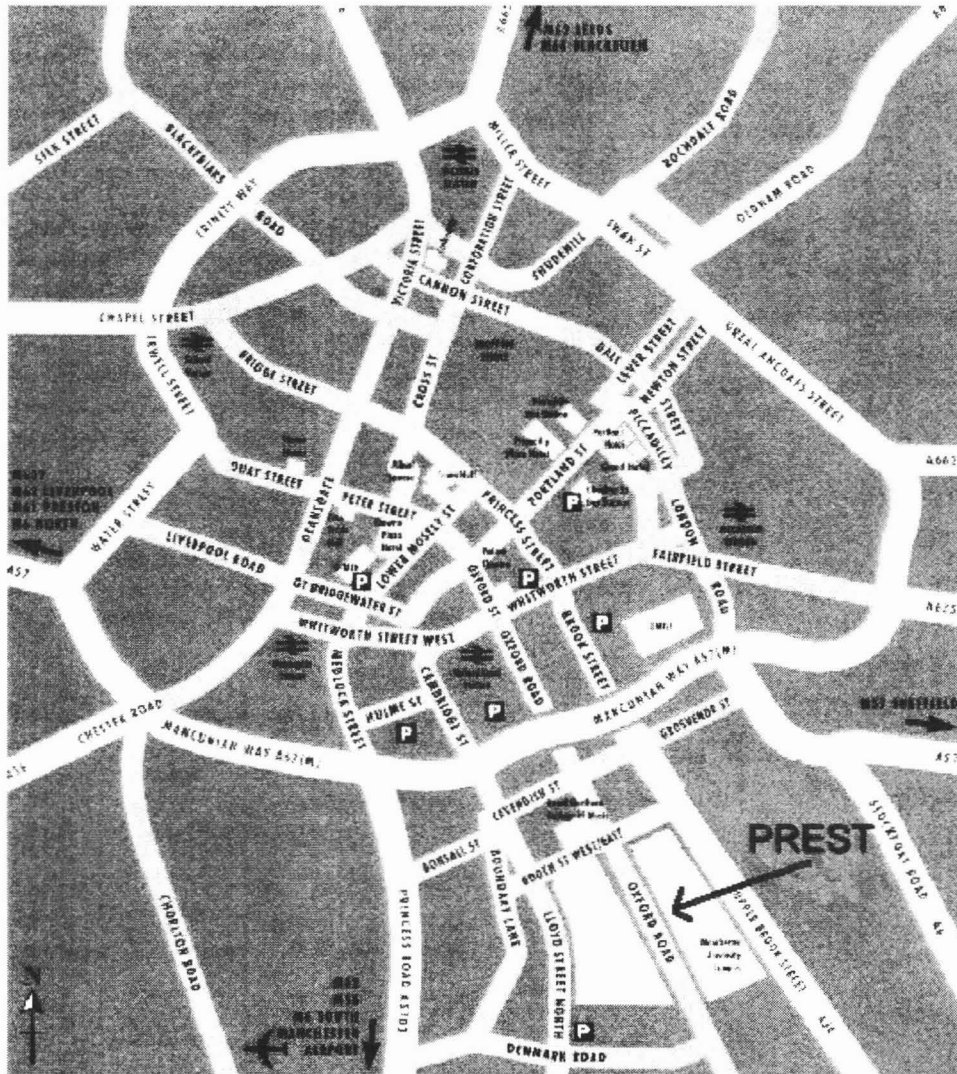
○さらに、近年、マンチェスター大学と UMIST は合併を宣言しており、質的にも、オックスフォード、ケンブリッジ、ロンドンに対抗する英国最大の大学が創出されることになる。

○PREST はその組織的性格上、ビジネススクール等との関係が深く、また、教授法等の教育においてはディスカッションを中心とした少数精鋭による授業が採用されている。

(作成者：基礎基盤研究課 松澤孝明；2002年3月)

How to find Us

PREST is located on the third floor of the Mathematics Building, a nineteen-storey tower on the main University campus on Oxford Road, just south of the city centre. See overleaf for *Campus Map*.



By Road

All approach routes into Manchester are clearly signposted 'Universities'.

Parking

The nearest parking is in the Booth Street East Car Park, located just behind the building, and accessed from Booth Street East. A large multi-storey car park has substantially increased the provision of spaces available to visitors at this location.

Public Transport

The University is extremely well-served by buses from the City Centre, with services from the Bus Station at Piccadilly Gardens (a short walk from Piccadilly mainline railway station) in particular travelling along Oxford Road every few minutes.

Taxi Fares

From Manchester railway stations, a typical fare to the University campus would be £2.50 - £3.50. From Manchester Airport, a typical fare would be around £9.00.



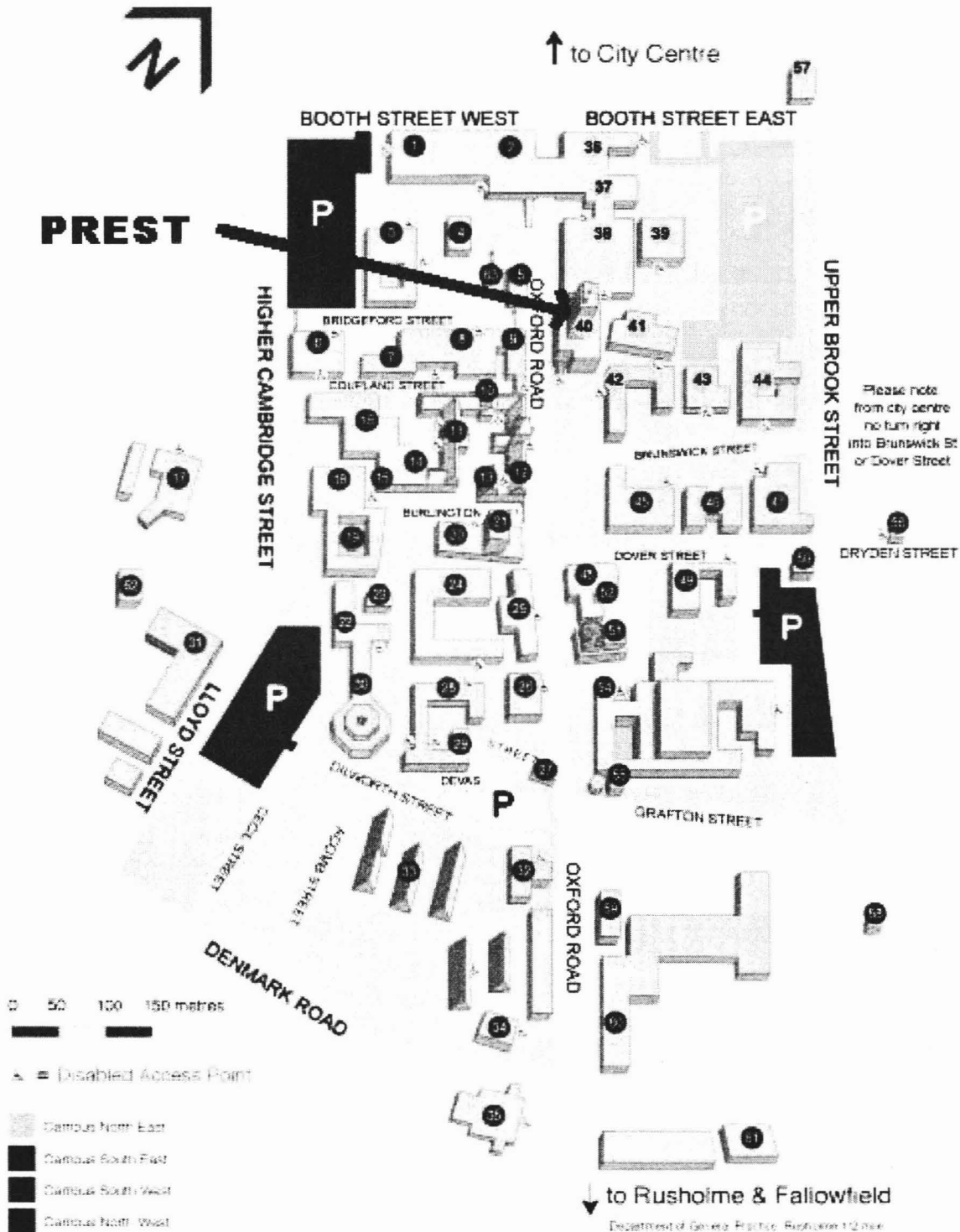
PREST
POLICY RESEARCH IN
ENGINEERING, SCIENCE & TECHNOLOGY

Third Floor, Mathematics Building,
The University of Manchester,
Oxford Road
Manchester M13 9PL

Tel: +44 (0)161-275 5921/5900 Fax: +44 (0)161-273 1123 Web: <http://les.man.ac.uk/PREST/>

How to find Us

PREST is located on the third floor of the Mathematics Building, a nineteen-storey tower on the main University campus on Oxford Road, just south of the city centre. See overleaf for *Manchester Area Map*.



PREST
POLICY RESEARCH IN
ENGINEERING, SCIENCE & TECHNOLOGY

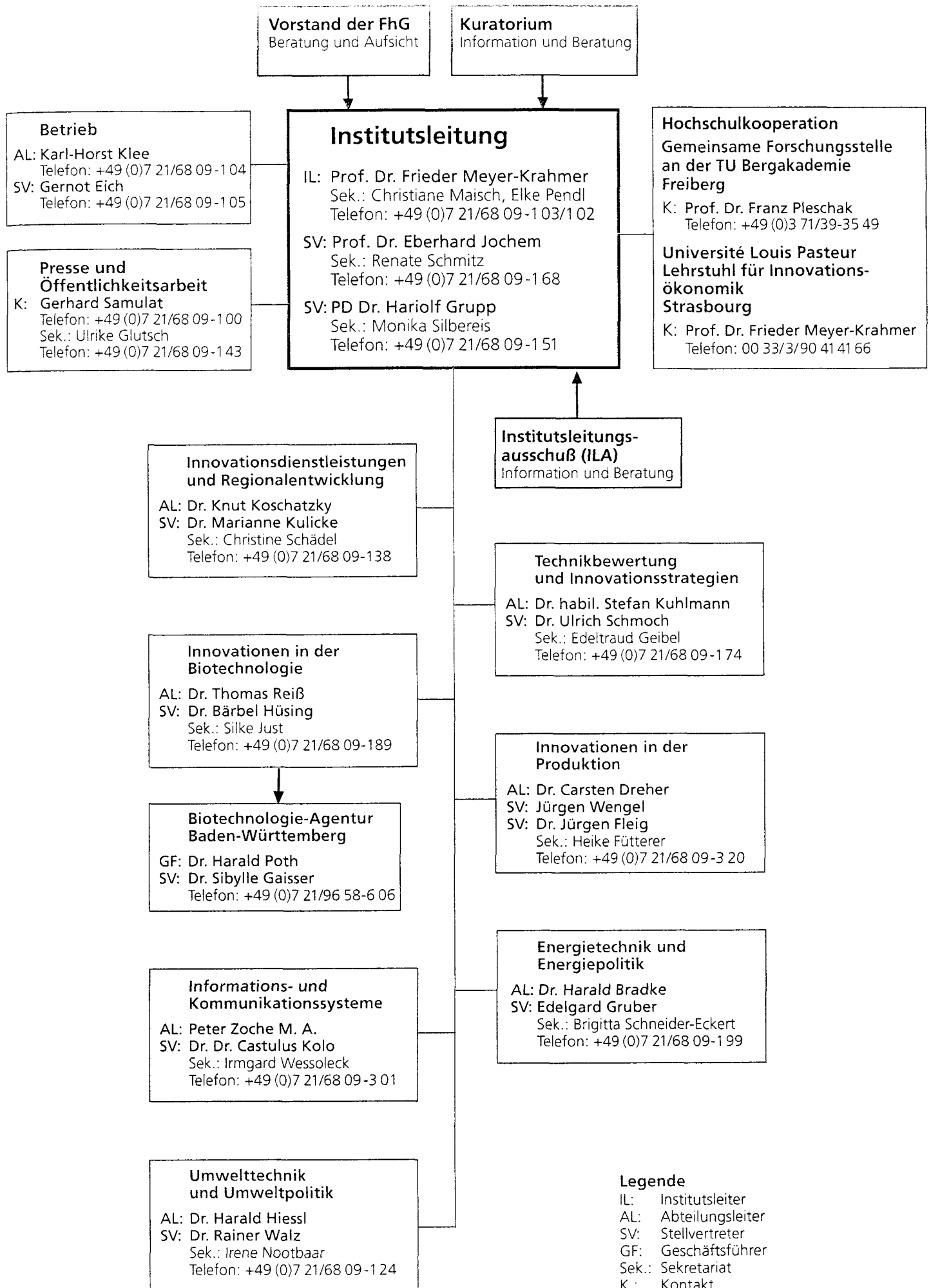
Third Floor, Mathematics Building,
The University of Manchester,
Oxford Road
Manchester M13 9PL

Tel: +44 (0)161-275 5921/5900 Fax: +44 (0)161-273 1123 Web: <http://es.man.ac.uk/PREST/>

名称 (和文)	独フラウンホーファ協会システム・イノベーション研究所
(英文)	Fraunhofer Institute for Systems and Innovation Research <FhG/ISI>
(原語)	Fraunhofer Institut Systemtechnik und Innovationsforschung
住 所	Breslauer Strasse 48, D-76139 Karlsruhe, Germany (地図 有・○無)
主 要 業 務	<p>・以下の各分野及び分野横断的イノベーション戦略に係る調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> －イノベーション・サービス及び地域発展 －技術分析及びイノベーション戦略 －バイオテクノロジーのイノベーション －生産におけるイノベーション －コミュニケーション・システムにおけるイノベーション －エネルギー技術及びエネルギー政策 －環境技術及び環境経済 <p>→ 主なクライアントは独連邦教育科学研究技術省、同経済・環境省、EU 総局、独国内各州政府、民間企業、通商団体等</p>
組 織 構 成	(別紙 ○有・無)
職員数及び 研究スタッ フ数	<ul style="list-style-type: none"> ・1998 年度常勤スタッフ総数 135 名 (うち研究者 70 名)、その他スタッフ 90 名 (客員研究員、大学からの支援要員等) ・常勤研究者の専門分野は自然科学 (物理、化学、生物学、水文学、地理学等)、工学 (プロセス工学、機械工学、食料科学、農学等)、経済学 (政治経済学、MBA 等)、社会科学 (社会学、政策科学等) 及び経済工学等の学際領域 ・常勤研究者の 60%は ISI に 5 年以上在籍、40%以上が学位保持、14 名の若手研究者が学位取得準備中 (98 年度)。自らの研修・学位授与機能はなし
年 間 予 算	<ul style="list-style-type: none"> ・98 年歳入予算額 20.9 百万 DM (対前年比 22%増：うち外部収入 17.1 百万 DM、協会からのファンド 3.8 百万 DM) ・歳入のうち 56%が独連邦政府、16%が EU・各州・地方自治体、17%が産業界、11%が研究推進機関等より (受託研究収入の 4 分の 3 は民間企業・地域機関から)
創設時期・沿 革等	<ul style="list-style-type: none"> ・1972 春 フラウンホーファ協会の科学技術中心のディシプリンを技術、産業及び社会の境界領域に拡大すべく、当該分野に係る専門調査研究機関として Prof. Helmar Krupp のイ

	ニシアティブにより設置 (Krupp 氏は 89 年まで所長を歴任)
コンタクト パーソン	<ul style="list-style-type: none"> ・ Name: Dr Hariolf Grupp ・ Title: 副所長 (Deputy Director) ・ Tel.: +49-721-6809-156 ・ Fax: +49-721-6809-176 ・ E-mail: gru@isi.fhg.de ・ URL: http://www.isi.fhg.de
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1988. 当研究所第 1 研究 G・井上研究員、短期在外研究員制度により ISI 派遣 ・ 1990.2 技術予測に係る共同研究、研究者派遣・受入れ等に係る協力覚書締結 (※2000.12 失効) ・ 1998.3 Dr Grupp 副所長、当研究所の事前の機関評価を実施 (英 PREST・Georghiou 所長との共同による) ・ 2001.3 Dr Grupp 副所長、当研究所の活動状況のレビューを実施 (英 PREST・Georghiou 所長との共同による) ・ 2001.5 当研究所・永野総務研究官 ISI 訪問、イノベーション研究等に係る意見交換 (Grupp 副所長、Dr Koschatzky イノベーション・地域開発部門長、Dr Thomas Reiß バイオ技術イノベーション部門長)

(作成者：企画課 斎藤尚樹；2001 年 11 月)



OST

Observatoire des Sciences et des Techniques

Observatoire des Sciences et des Techniques [英語表記の場合でも仏語を使用する]

科学技術観測所

住所 93, rue Vaugirard, 75006 Paris, France

主要任務

主要任務は、科学・技術・イノベーション活動に関する定量的指標を開発・生成するとともに、これらの活動に基づいて、フランスやヨーロッパといった規模で研究の公共政策の戦略的分析や将来予測に参画することである。指標を取り纏めたレポートして、2年毎に“*Science & Technologie Indicateurs* (科学技術指標)”を公表してフランスやヨーロッパの国々の科学技術の状況を地域・国・世界の各レベルで解釈し分析しているほか、機関として主要な活動の状況を纏めたニュースレターとして、年約3回、“*La lettre OST* (ラ・レトゥル・OST)”を発行している。その他にも、個々の研究者らにより、研究政策に関する研究に従事し論文等を発表している。[以上、http://www.obs-ost.fr/ost_fr/accueil.htmをもとに作成した。]

なお、正式には、OSTの設置根拠となっている *convention constitutive* (構成協定) の第2条により、次のように規定されている：

- 科学・技術・イノベーション活動に関連した量的指標のメンバー(すなわち、データの収集やデータベースの構築を行っている機関 [訳註]) と調整された構想と生産、およびヨーロッパおよび世界におけるフランスの位置に関するそれらの解釈。
- これらの指標、および、指標によって生じられたり、OST自体、フランスあるいは外国の機関によって生産された分析の、直接的なあるいはパートナーとの共同生産による、公表、普及、価値増大化。この普及は、とくに、広く公衆に向けられた毎年あるいは隔年の書物の形態で行われる。
- この種の指標の生産に関する方法論、これらの指標の正当性や信頼性の条件、および、許される戦略的あるいは将来に関する分析に関する知識の前進。
- この(研究・調査 [訳註]) 領域を形成する努力への参加。
- この(研究・調査 [訳註]) 領域における国際的イニシアティブへの参加。

[以上、添付資料を参照せよ。]

組織構成

統治ならびに運営に関する機関として、以下の機関が置かれている：

- Assemblée général（総会）[構成協定第 18 条に規定]
- Conseil d'administration（経営会議—いわゆる「理事会」に相当する）[構成協定第 19 条に規定]
- Président du Conseil d'administration（経営会議議長）[構成協定第 20 条に規定]
- Directeur du groupement（組合長）[構成協定第 21 条に規定]
- Conseil scientifique（科学会議）[構成協定第 22 条に規定]

[これらの機関の構成員や任務については、添付資料を参照のこと.]

なお、14 の組合員で構成され、現在の組合員は次のとおりである：

- Ministère de la Recherche（研究担当省）
- Ministère de la Défense（国防担当省）
- Ministère de l'Industrie（産業担当省）
- Ministère des Affaires étrangères（外務担当省）
- Ministère de l'Environnement（環境担当省）
- Ministère de l'Équipement（設備担当省）
- CNRS : Centre national de la recherche scientifique（国立科学研究センター）
- CEA : Commissariat à l'énergie atomique（原子力エネルギー庁）
- CNES : Centre national d'études spatiales（国立宇宙調査センター）
- INSERM : Institut national de la santé et de la recherche médicale（国立保健・医学研究所）
- INRA : Institut national de la recherche agronomique（国立農学研究所）
- IRD : Institut de recherche pour le développement（発展研究所）
- CIRAD : Centre de coopération international en recherche agronomique pour le développement（発展用農学研究国際協力センター）
- ANRT : Association nationale de la recherche technique（技術研究全国協会）

[以上、http://www.obs-ost.fr/ost_fr/present.htm をもとに作成した.]

一方、OST のチーム（内部執行組織）については、小規模の組織であることもあり、それほど明示的な階層は取られていない。以下のような役職が置かれている：

- Directeur（所長(Director)）[1 名]
- Directrice adjointe（副所長(Deputy director)）[1 名；女性のため役職名は女性形である]
- Chefs de projets（プロジェクト長(Senior project managers)）[3 名]
- Chargés d'études（研究担当(Junior project managers)）[3 名]

- Informatique et Bases de données (情報・データベース (Data processing and databases)) [3名]
- Assistance de projets (プロジェクト補佐 (Project assistance)) [2名]
- Communications et documentaion (コミュニケーションおよびドキュメンテーション (Communication and documentation)) [2名]
- Administration (管理 (Administration)) [3名; 秘書や会計管理など]

[以上, http://www.obs-ost.fr/ost_fr/equipe.htmをもとに作成した. 現在の担当者名や連絡先もこのサイトより利用可能である.]

職員数・研究スタッフ数

上述の「チーム」において示されているとおり, ほぼ常勤の職員は18名であり, うち, 研究スタッフは13名である. なお, この他に, 非常勤で, プロジェクトに応じて参画する者もいると言われている. なお, 公表資料等には示されていないが, GIPという設立形態のもとではスタッフを雇用することができない. そのために, 各スタッフとも, 形式的には別の組織において雇用され, OSTに出向で来ているという形態を取っているようである. その意味から, 後述する年間予算は, 研究スタッフの person cost を含まない純粋な研究費であるようである.

年間予算

約8百万フラン (約1.2百万ユーロ) で, うち約7百万フランが各組合員からの拠出金によるものであり, 残りの1.3百万フラン (予算全体の約15%) が個々の契約に基づく作業に関するものである. [以上, 添付資料およびhttp://www.obs-ost.fr/ost_en/present.htmを参照せよ.]

創設時期・沿革等

OSTは, GIP : Groupement d'Intérêt Public (公益組合) という設立形態に基づく組織であり, 6年間の時限組織として1990年3月28日のアレテによって設立され, その後, 1996年5月26日に, さらに6年間の時限組織として更新され, 現在に至っている. [以上, http://www.obs-ost.fr/ost_fr/present.htmをもとに作成した.]

コンタクトパーソン

Name: Rémi Barré (レミ・バレ)

Title: Directeur

Tel.: +33.1.42.22.30.30

Fax: +33.1.45.48.63.94

E-mail: barre@obs-ost.fr

URL: http://www.obs-ost.fr/ost_fr/default.htm (仏語版)

http://www.obs-ost.fr/ost_en/default.htm (英語版)

その他特記事項

1994年1月1日より3年間の期限付きで協力覚書が締結された。科学技術政策研究における協働、情報交換ならびに研究者交流等が了解された。

1999年2月に協力覚書が締結された。科学技術政策研究における協働、情報交換ならびに研究者交流等が了解された（失効日：2001年12月31日）。

2000年3月15日に、植田企画課長（当時）が、科学技術政策局調査課池田専門職（当時）および在仏日本大使館板倉書記官（当時）とともにOSTを訪問し、Barré所長および大久保プロジェクト・リーダー（当時）と面会し、双方の活動に関する情報交換を行った。

2000年4月4日に、伊地知研究員（当時）がOSTを訪問し、Esterle 副所長および大久保プロジェクト・リーダー（当時）と面会し、フランスの研究システム全般の状況について指標を扱っている観点から情報を収集・意見交換を行った。

また、1999年から2000年にかけて、大久保プロジェクト・リーダー（当時）が来日された機会に当所を訪問され、小林総括主任研究官、富澤主任研究官、伊地知研究員（当時）らと面会し、とくに指標に関連した研究・調査について意見交換を行った。

そのほか、最近でも、欧州で開催される国際コンファレンスなどにおいて、小林総括主任研究官や伊地知主任研究官は Barré 所長と接触する機会を有してきている。

（作成者：第1研究グループ 伊地知 寛博，2001年12月）

その他参考資料

La letter OST

1998年5月12日

On OST: Observatoire des Sciences et des Techniques

OST (科学技術観測所) に関して

伊地知 寛博

設立

OST: Observatoire des Science et des Techniques (科学技術観測所) は、GIP: groupement d'intérêt public (公益組合) の一つである。GIPとは、1982年7月15日の法律第82-610号および1983年3月15日のデクレ第83-204号に規定されている組織形態の種類であり、法人格と財政上の自律性を有し、研究・技術開発活動を行う公施設間で構成され、決められた期間内だけ存続する。基本的には、法律第82-610号の下での公施設にまたがる研究・技術開発活動を行うために導入された組織概念であるが、これが、OSTの設立の際に適用された。なお、OSTは、初め1990年に設立された。その後更新されて、1998年現在、OSTは、このGIPという形態の下、convention constitutive (構成協定) によって規定され、この構成協定は関係大臣のアレテ (Arrêté du 28 mai 1996 approuvant la convention constitutive modifiée d'un groupement d'intérêt public (公益法人の修正された構成協定を承認する1996年5月28日のアレテ)) によって承認されている。なお、現行の構成協定によって、1990年3月20日および1993年6月8日に関係大臣によって承認された以前の構成協定は廃止され置換されている。

組織

OSTは、1996年4月13日から6年間存続する [構成協定第4条]。

OSTは、次の機関の間で構成される [構成協定前文]：

État, représenté par (以下によって代表される国家)：

- Ministère chargé de la Recherche (研究担当省)
- Ministère chargé de l'Économie (INSEE: Institut National de la Statistique et des Études Économique) (経済担当省 (国立統計・経済学研究所))
- Ministère chargé de la Défense (DRET: Direction de la Recherche et des Études Techniques du Ministère de la Défense) (国防担当省 (国防省研究・技術研究局))
- Ministère chargé de l'Industrie (産業担当省)
- Ministère chargé de l'Environnement (環境担当省)
- Ministère chargé des Affaires étrangères (外務担当省)
- Ministère chargé de l'Équipement (設備担当省)

France Telecom (CNET: Centre National d'Études des Télécommunications) (フランステレコム (国立通信研究センター))

CNRS : Centre National de la Recherche Scientifique (国立科学研究センター)

INSERM: Institut National de la Santé et de la Recherche Médicale (国立保健・医療研究所)

CEA: Commissariat à l'Énergie Atomique (原子力庁)

INRA: Institut National de la Recherche Agronomique (国立農業研究所)

CNES: Centre National d'Études Spatiales (国立宇宙研究センター)

ANRT: Association National pour la Recherche Technique (全国技術研究協会)

[したがって、OSTを構成する14メンバーの内訳は、7省、6公施設、1私的団体(ANRT)ということになる。また、フランスでは、内閣が替わるたびに、大臣および組織としての「省」が所掌する任務が変わることから、通常、法令では、その時点における特定の省の固有名称を用いなくて、「...担当省」のように、任務によって省を指し示す.]

OSTは、資本金無しで構成されている [構成協定第6条].

また、OSTは、次のような権利・義務の割合となっている [構成協定第7条]:

État (国家):

- Ministère chargé de la Recherche (研究担当省)	23.7%
- Ministère chargé de l'Économie (INSEE) (経済担当省)	6.0%
- Ministère chargé de la Défense (DRET) (国防担当省)	5.3%
- Ministère chargé de l'Industrie (産業担当省)	6.0%
- Ministère chargé de l'Environnement (環境担当省)	6.0%
- Ministère chargé des Affaires étrangères (外務担当省)	6.0%
- Ministère chargé de l'Équipement (設備担当省)	6.0%
France Telecom (CNET)	6.0%
CNRS	10.0%
INSERM	6.0%
CEA	6.0%
INRA	6.0%
CNES	6.0%
ANRT	6.0%
計	100.0%

OSTには、次の機関が置かれている。

1. Assemblée générale (総会) [構成協定第18条]:

総会は、組合のメンバー全体で構成される。後述の **Conseil d'administration** が場所やすべての権限を定めるとなっているが、通常は機能しない。

2. Conseil d'administration (経営会議—理事会に相当する) [構成協定第19条]:

Président (議長—理事長に相当する)、組合のメンバーである組織からの Représentants titulaires (正資格代表者) および Suppléants (代理者)、さらに、Commissaire du Gouvernement (政府委員—組合の活動を監視する [構成協定第17条])、Contrôleur d'État (国家監査官)、Adjoint au contrôleur d'État (国家監査官補佐)、Expert-comptable auprès de l'OST (OST公認会計士) から構成される [メンバーの氏名・所属については、*la lettre de l'OST*, n°12, Février 1997 を参照]。多くの重要な任務が構成協定第19条に記されているが、日常のOSTの活動に関連した任務としては、後述する経営会議議長および組合長の任命と解任、活動プログラムの決定と予算の承認が重要であろう。

3. Président du Conseil d'administration (経営会議議長) [構成協定第20条]:

議長は、経営会議によって、そのメンバーの中から任命される。任期は3年で再任可能である。主たる任務は、経営会議の招集と、組合長の任命と解任に関する協議についての経営会議への提案である。

4. Directeur du groupement (組合長) [構成協定第21条]:

組合長は、経営会議の権限のもとで、また経営会議によって定められた条件の中で、組合の職務を保証する。組合長は、発言権を持って経営会議の会合に参加する。

5. Conseil scientifique (科学会議) [構成協定第22条]:

科学会議は、再任可能で任期3年の6ないし12人のメンバーで構成されることとなっている。各人は、個人の資格で（組織の代表者としてではなく）、議長の提案に基づき Conseil d'administration（経営会議）によって任命される。1997年現在、国内外の11人のメンバーで構成されている（国外については、イギリス、ドイツ、オランダ、およびOECDの研究者が入っている）[メンバーの氏名・所属および議長については、*la lettre de l'OST*, n°12, Février 1997を参照]。

目的

OSTの目的は、構成協定第2条に次のように規定されている：

- 科学・技術・イノベーション活動に関連した量的指標のメンバー（すなわち、データの収集やデータベースの構築を行っている機関 [訳注]）と調整された構想と生産、およびヨーロッパおよび世界におけるフランスの位置に関するそれらの解釈。
- これらの指標、および、指標によって生じられたり、OST自体、フランスあるいは外国の機関によって生産された分析の、直接的なあるいはパートナーとの共同生産による、公表、普及、価値増大化。この普及は、とくに、広く公衆に向けられた毎年あるいは隔年の書物の形態で行われる。
- この種の指標の生産に関する方法論、これらの指標の正当性や信頼性の条件、および、許される戦略的あるいは将来に関する分析に関する知識の前進
- この（研究・調査 [訳注]）領域を形成する努力への参加
- この（研究・調査 [訳注]）領域における国際的イニシアティブへの参加

また、1996年の構成協定から3年後（すなわち1999年）に、OSTの評価が行われることになっている。

活動と主な研究・調査分野

指標に関する活動は、大きく2つに分けられ、一つは、広く公衆に向けられた出版であり、もう一つは、メンバーとなってる公的機関のための、特定の、または、秘匿の、あるいは、詳細な調査・分析である。前者の活動に対応する成果物が、これまで1992年から隔年で発行されている *Science & Technologie, indicateurs*（科学技術、指標）や *la lettre de l'OST*（OSTレター）である。また、EUやUNESCO等の指標に関するレポートへの寄与もこの範疇に含められる。また、指標に関わる方法論に関する研究も進められている。他方、後者の各組織との個別の対応に基づく分析では、たとえば、「重要技術」に関する分析等を挙げることができよう。なお、OSTでは、特定の課題について取り組む際に、アドホックなワーキンググループをつくるという。

さらに、OSTは、データや指標、学術的研究、政策形成専門家のあいだに橋を架けることを目的として、関係者の共通の関心と呼ぶ事項についてセミナーを開催している。

なお、よりOSTの活動の紹介は、*la lettre OST*, n° 12, p.4の組合長である Rémi Barré によって書かれた記事により詳しく著されている。また、OSTが持つデータベースの項目については、*la lettre OST*, n° 12, p.6に記載されている。

OSTは、指標やデータの分析に基づく研究・調査の信頼性にとくに重きをおいており、決定の外側にある独立した専門家としての地位を保とうとしている。しかし、外部からの観察者によれば、OSTは、たとえば、指標の解釈といった作業を通じて、だんだん政策決定に近い立場に移っていきだろろうという見方をする者もある。

予算

OSTの年間予算は約8百万フランで、うち1.3百万フランが個々の契約に基づく作業に関するものであり、残り7百万フランが各メンバーからの拠出金によるものである。拠出金の額は、組合としての権利・義務の割

合に応じて定められている。

人員

常勤の職員（研究者・技術者）は8名であり、非常勤職員を入れて全部で12名である。

参考文献

Convention Constitutive, Observatoire des sciences et des techniques.

Arrêté du 28 mai 1996 approuvant la convention constitutive modifiée d'un groupement d'intérêt public, *Journal Officiel de la République Française*, 5 juin 1996, p.8272.

La lettre de l'OST, n° 12.

Barré, R., Laville, F., Teixeira, N. et Zitt, M. 1995 L'Observatoire des sciences et des techniques: activités - définition - méthodologie, *Solaris*, n° 2, Presses Universitaires de Rennes, <http://www.info.unicaen.fr/bnum/jelec/Solaris/d02/2barre.html>.

VINNOVA

Verket för innovationssystem

The Swedish Agency for Innovation Systems

イノベーション・システム庁

住所 Mäster Samuelsgatan 56, 101 58 Stockholm, Sweden

主要任務 任務は一般には次のように紹介されている：

- 産業界および公的セクターのニーズに応えた研究・開発・実証活動に資金を提供する
- 大学、産業研究機関、産業界のあいだの協力を促進する
- 情報と知識の普及を、とくに中小企業に対して、推進する
- EUの研究開発フレームワーク・プログラムへのスウェーデンの参加を増加させるように奨励する
- 技術フォーサイトのプロセスを評価し開発する
- イノベーション・システムにおける研究機関の役割を展開する

[以上、VINNOVA Information VI 2001:1 および VINNOVA Information VI 2001:2 を参照.]

これらの任務のうち、科学技術・イノベーション政策研究については、後述するイノベーション・システム部において、研究・調査・分析が実施されている。

なお、任務は、正式には、VINNOVA の設置根拠となっている Förrordning (2000:1132) med instruktion för Verket för innovationssystem (イノベーション・システム庁に対する命令を伴った政令 (2000 年度第 1132 号)) の第 1 条、第 2 条により、次のように規定されている：

- 技術・交通・コミュニケーション・労働生活といった活動領域における効果的なスウェーデンのイノベーション・システムの展開を促進する
- 知識ニーズを調査し、ニーズに動機づけられた研究・開発・実証プロジェクトを開始し資金配分を行うとともに、知識が普及し活用されるように寄与する
- 研究・開発およびこれに関連する活動に対する資金を配分する
- イノベーション・システムにおける産業研究機関の役割が展開されるように寄与する

- とくに中小企業における知識開発を考慮して、産業研究機関、大学、大学カレッジ、および民間ならびに公共活動におけるアクター間の協力を展開する
- 欧州委員会の研究開発フレームワーク・プログラムや他の国際的研究プログラムにおける現行の研究テーマや、現行の部分での欧州委員会の構造基金での交流において、スウェーデンの参画を促進する
- イノベーション・システムにおける異なるアクター群間の知識移転や流動性を奨励する
- 研究開発課題において、政府に対する助言機関となる
- ジェンダーの視点が研究に効果を及ぼすように寄与する
- 男女間の機会均等を図る

組織構成

統治に関する機関として、政令（2000年度第1132号）の第4条および Verksförordning (1995:1322)（行政庁政令（1995年度第1322号））により、次の機関が置かれている：

- Styrelse（理事会）

理事会は、行政庁（すなわち VINNOVA）の長と他の ledamot（理事）によって構成される。VINNOVA の長を除く 10 名の理事は、すべて非常勤（すなわち庁外）の役員である。理事会の会長・副会長は、いずれもこの庁外の理事が務める。理事会は、行政庁政令（1995年第1322号）第11条から第13条までの規定に加えて、政令（2000年度第1132号）第7条の規定にある責任と任務を有する。

執行は、政令（2000年度第1132号）の第5条の規定により、VINNOVA の長である次の者によって行われる：

- Generaldirektören（ジェネラル・ディレクター）

その責任と任務は行政庁政令（1995年第1322号）第6条から第10条までに規定されている。

また、執行を分担するべく、理事ではない、各部門を担当する7名の direktör（ディレクター）が置かれている。

また、VINNOVA の内部は、以下のとおり、イノベーション・システムについて、システム全体について研究・調査・分析等を行う部門、研究・技術領域別に担当する部門、イノベーション・システムの各アクター別に担当する部門の3部門とともに、庶務的な2部門ならびにジェネラル・ディレクター事務局からなっている。このように、VINNOVA では、庁全体として、イノベーション・システム全体について、専門性を備えつつ有機的な統合をめざした政策運営を図る組織となるように構成されている：

- GD-kansli（ジェネラル・ディレクター事務局）

- Avdelningen för innovationssystem (イノベーション・システム部)
 - Analys (分析)
 - Teknisk Framsyn (技術フォーサイト)
 - Innovationssystemforskning (イノベーション・システム研究)
 - Utvärdering (評価)
- Avdelningen för kompetensområden (能力領域部)
 - Informations- och kommunikationsteknik (情報技術およびコミュニケーション技術)
 - IT-användning (情報技術応用)
 - Arbetslivsutveckling (労働生活開発)
 - Livsvetenskap/bioteknik (ライフサイエンス/バイオテクノロジー)
 - Transporter (交通)
 - Tillverkning och material (製造および材料)
- Avdelningen för aktörsgrupper (アクター・グループ部)
 - Innovationsstem för tillväxt i regioner (地域における成長のためのイノベーション・システム)
 - Institut och kompetenscentrum (研究所およびコンピテンス・センター)
 - Internationella frågor (国際的問題)
 - Kluster, nätverk, länker (クラスター, ネットワーク, リンク)
- Förvaltningsavdelningen (管理部)
 - Administration (管理)
 - Ekonomi (財務)
 - Personal (人事)
 - IT (情報技術)
- Avdelningen för kommunikation och policy (コミュニケーションおよび政策部)

[以上, Årsredovisning 2001 (Annual Report 2001), s. 41 ならびに VINNOVA Information VI 2002:4 参照]

職員数・研究スタッフ数

職員数は, 新入職員および(出向や育児等による長期的な)休暇職員を含めて156名である。このうち, 研究スタッフ数については, イノベーション・システム部の職員がこれに該当するとすると, 26名である。

[職員数については, Årsredovisning 2001 (Annual Report 2001), VINNOVA Information VI 2002:4を参照。また, 研究スタッフ数については, <http://www.vinnova.se/addresser.htm> (2001年11月9日付け)を参照。]

年間予算

2001年度（2001年1月1日－2001年12月31日）において、VINNOVAの予算は、政府予算のUO24（支出領域24）26:2 Verket för innovationssystem: Forskning och utveckling（イノベーション・システム庁：研究開発）などに示されており、全体として約1,034Mkr（百万クローナ）〔1kr（クローナ）は約12円〕とされていた。

[以上、Regleringsbrev för budgetåret 2001 avseende Verket för innovationssystem, m.m. inom utgiftsområde 24 Näringsliv (rskr 1999/2000:257 och 2000/01:112)（支出領域24 産業におけるイノベーション・システム庁等に関する2001予算年についての規制書簡（議会通知書1999/2000年度第257号，2000/01年度第112号）参照。]

創設時期・沿革等

2001年1月1日に、旧 Närings- och teknikutvecklingsverket (NUTEK)（産業・技術開発庁）の研究開発部門と、Kommunikationsforskningsberedningen (KFB)（コミュニケーション研究立案委員会）、Rådet för arbetslivsforskning (RALF)（労働生活研究会議）が統合されて設置された。なお、科学技術・イノベーション政策研究を担当する部署の元になる旧NUTEKは1991年に設置されており、さらにその前身は1968年に設置された Styrelsen för teknisk utveckling (STU)（技術開発庁）である。

コンタクトパーソン

Name: Göran Marklund（ヨラン・マルクルンドウ）

Title: Direktör och avdelningschef för avdelningen innovationssystem（ディレクター兼イノベーション・システム部部長）

Tel.: +46-8-473 30 00

Fax: +46-8-473 30 05

E-mail: vinnova@vinnova.se

URL: <http://www.vinnova.se/>

その他特記事項

NISTEP 創設直後、NUTEK の Lennart Stenberg (レナート・ステンベリイ) 研究官 (当時) が研究滞在者として NISTEP に短期間滞在した。

1995 年 11 月に NUTEK の主催で開催された国際研究会議に、NISTEP から富澤研究員 (当時)、伊地知科学技術特別研究員 (当時) が参加した。

1996 年 5 月、1996 年 12 月、1998 年 2 月に、伊地知科学技術特別研究員 (当時) が NUTEK にそれぞれ短期間滞在して、NUTEK との協働や協力で、スウェーデン等における研究開発活動の分析や科学技術行政体制の調査を実施した。

1999 年 5 月 24 日に、Sara Modig (サラ・ムーディグ) 研究官らが、各国のナショナル・イノベーション・システムの調査・分析の一環として、Lennart Stenberg (レナート・ステンベリイ) 在京スウェーデン大使館科学技術参事官とともに NISTEP を訪問し伊地知研究員 (当時) が対応するとともに、Göran Marklund (ヨラン・マルクルンド) 部長からの両機関の研究協力関係の締結を打診する書簡が、Modig 研究官から佐藤所長 (当時) に手交された。

2000 年 3 月 17 日に、植田企画課長 (当時) が NUTEK を訪問し、Marklund 部長らと面会し、双方の活動に関する情報交換を行った。

2000 年 6 月 15 日より発効するというので、NISTEP と NUTEK の間で、3 年間の期限付きで了解書が締結された。科学技術政策研究における協働、情報交換ならびに研究者交流等が両機関で了解された。

2000 年 9 月 15 日 - 17 日に、NISTEP の主催で開催された「第 5 回地域科学技術政策研究国際会議 (RESTPOR2000)」に、NUTEK より Marklund 部長が参加し講演を行うとともに、当時、NUTEK から欧州委員会に派遣されていた Modig 先遣専門官 (当時) や Stenberg 参事官も参加した。

2001 年 3 月 2 日に、Per Eriksson (ペア・エリクソン) 長官 (ジェネラル・ディレクター) らが NISTEP を訪問し、間宮所長、斎藤企画課長、伊地知研究員 (当時) と最近の科学技術政策や科学技術行政体制について情報交換を行った。

2001 年 10 月 17 日に、間宮所長と鈴木上席研究官が VINNOVA を訪問し、Eriksson 長官や Marklund 部長らと面会し、科学技術政策やイノベーション・システムについて意見交換を行った。また、2001 年 1 月に、NUTEK が VINNOVA に再編されたことなどを踏まえ、改めて、NISTEP と VINNOVA の間で、3 年間の期限付きで了解書が締結された。科学技術政策研究における協働、情報交換ならびに研究者交流等が両機関で了解された。

(作成者：第 1 研究グループ 伊地知 寛博，2002 年 3 月)

その他参考資料 * VINNOVA Information VI 2002.4

- ・ Årsredovisning 2001 (Annual Report 2001)
- ・ Regleringsbrev för budgetåret 2001 avseende Verket för innovationssystem, m.m. inom utgiftsområde 24 Näringsliv (rskr 1999/2000:257 och 2000/01:112)

2001年12月7日

イノベーション・システム庁に対する命令を伴った政令（2000年第1132号）[仮訳]
Förordning (2000:1132) med instruktion för Verket för innovationssystem

伊地知 寛博

任務

第1条 イノベーション・システム庁は、技術・交通・コミュニケーション・労働生活といった活動領域における効果的なスウェーデンのイノベーション・システムの展開を促進する。イノベーション・システムでは、新しい技術や知識が生産され、普及され、活用される、公共および民間のセクターのネットワークがめざされている。

本庁はまた、知識ニーズを調査し、ニーズに動機づけられた研究・開発・実証プロジェクトを開始し資金配分を行うとともに、知識が普及し活用されるように寄与するという任務を有する。

第2条 イノベーション・システム庁は、とくに

- － 研究・開発およびこれに関連する活動に対する資金を配分する、
- － イノベーション・システムにおける産業研究機関の役割が展開されるように寄与する、
- － とくに中小企業における知識開発を考慮して、産業研究機関、大学、大学カレッジ、および民間ならびに公共活動におけるアクター間の協力を展開する、
- － 欧州委員会の研究開発フレームワーク・プログラムや他の国際的研究プログラムにおける現行の研究テーマや、現行の部分での欧州委員会の構造基金での交流において、スウェーデンの参画を促進する、
- － イノベーション・システムにおける異なるアクター群間の知識移転や流動性を奨励する、
- － 研究開発課題において、政府〔訳註：日本でいう「内閣」のことを指す〕に対する助言機関となる、
- － ジェンダーの視点が研究に効果を及ぼすように寄与する、および、
- － 男女間の機会均等を図る。

本庁は、関係する地域の、国の、および国際的なアクターと協力する。本庁は、とくに、Verket för näringslivsutveckling（産業展開庁）およびInstitutet för tillväxtpolitiska studier（成長政策研究所）と協力する。

第3条 イノベーション・システム庁は、他者に対して委託を行ってもよい。

しかし、政府以外の他者に対する委託に関して、請求政令（1992年第191号）に従って、報酬が取られる。

行政庁政令の適用

第4条 行政庁政令（1995年第1322号）が、その第35条を除いて、イノベーション・システム庁に適用される。

行政庁の運営

第5条 Generaldirektören（ジェネラル・ディレクター）が、イノベーション・システム庁の長である。

組織

第6条 イノベーション・システム庁は、準備および助言のための機関を設置してもよい。

理事会の責任と任務

第7条 行政庁政令（1995年第1322号）の第11条から第13条に規定されていることに加えて、本理事会は次のことを決定する

1. 事業の原則的および戦略的課題について、
2. 国会および政府によって規定された目標および基本方針という枠組みの中での事業の方針について、
3. 研究開発に対する補助金を含む事業計画について、および、
4. 資金配分についての原則について。

従業者代表

第8条 従業者代表政令（1987年第1101号）が、イノベーション・システム庁に対して適用される。

訴訟

第9条 資金に対する申請の採否に関する決定については訴えられない。他の訴訟については、行政庁政令（1995年第1322号）が有効である。

附則

1. 本政令は、2001年1月1日に発効する。また、この日に、Kommunikationsforskningsberedningen（コミュニケーション研究立案委員会）に対する命令を伴った政令（1996年第283号）と Rådet för arbetslivsforskning（労働生活研究会議）に対する命令を伴った政令（1995年第865号）は廃止される。
2. 政府が、特別の決定として、Närings- och teknikutvecklingsverket（産業・技術開発庁）、コミュニケーション研究立案委員会、および労働生活研究会議に関して規定していることは、その決定が本庁の責任に属する課題として有効であるという条件のもとで、代わって、イノベーション・システム庁に対して言及しているものであるとする。

名称 (和文)	国家技術研究センター
(英文)	Technical Research Centre of Finland (VTT)
(原語)	Valtion Teknillinen Tutkimuskeskus
住 所	Itamerentori 2 P.O.Box 160, FIN-00181 Helsinki, Finland (地図 ○有・無) (別紙-1)
主 要 業 務	<u>主務:</u> 産学官による共同研究の推進を主務とする。 大学の基礎研究と企業の商業化研究を結びつけるため、研究開発技術の移転・試験等を行う。 具体的には、各地にサイエンスパークを作り、地元の大学と中小企業を入れて三位一体プロジェクトを進めている。 また、将来を予測するための技術調査も行っている。 <u>戦略目標:</u> 中核技術における競争力を確立すること。 I T技術を他の分野に移転すること。
組 織 構 成	(別紙 ○有・無) 別紙-2; フィンランド行政機関の相関図と VTT の位置付け 別紙-3; VTT 組織図 別紙-4; VTT 主要メンバー
職員数及び 研究スタッフ数	職員約 3,000 人 (うち研究者が約 1,600 人)
年 間 予 算	213 mill. Euro (2000)
創設時期・沿革等	1942 年 1 月 16 日創立
コンタクト パーソン	Name: Mr. Torsti Loikkanen, Title: Group Manager, Senior Research Scientist, Industrial Environmental Economics, Environmental Technology Tel.: +358 9 456 4253 Fax: +358 9 456 7043 E-mail: Torsti.Loikkanen@vtt.fi URL: http://www.vtt.fi/ttr/indexe.htm

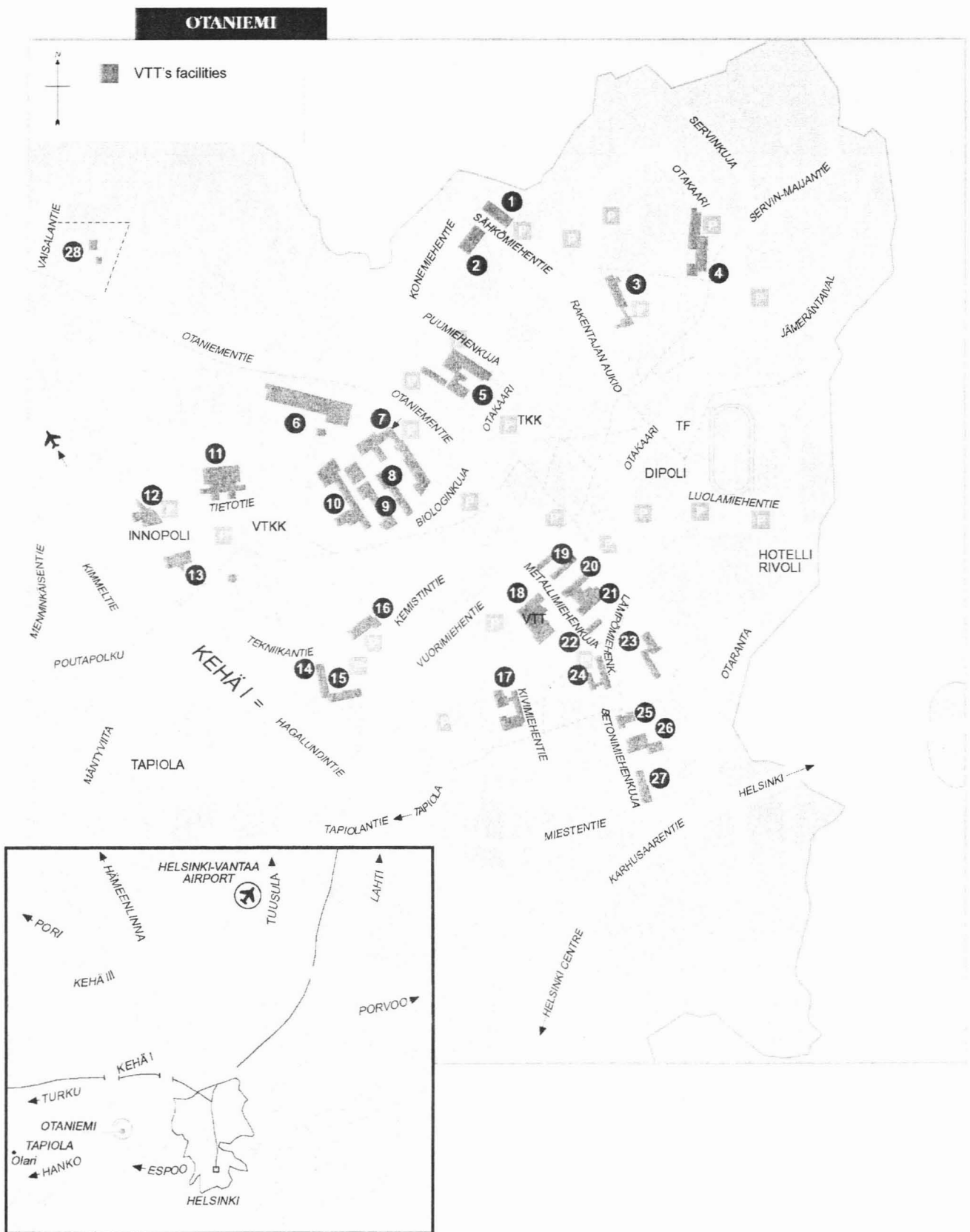
その他 特記事項	2001.10 間宮所長訪問、V T Tの最近の動向、技術予測に関する意見交換、日本の S&T 政策動向と政策研の役割、成果紹介 (フォルステン所長、ロイカネン産業・環境経済部長)
-------------	---

(作成者：第1調査研究グループ 鈴木研一；2001年12月作成)

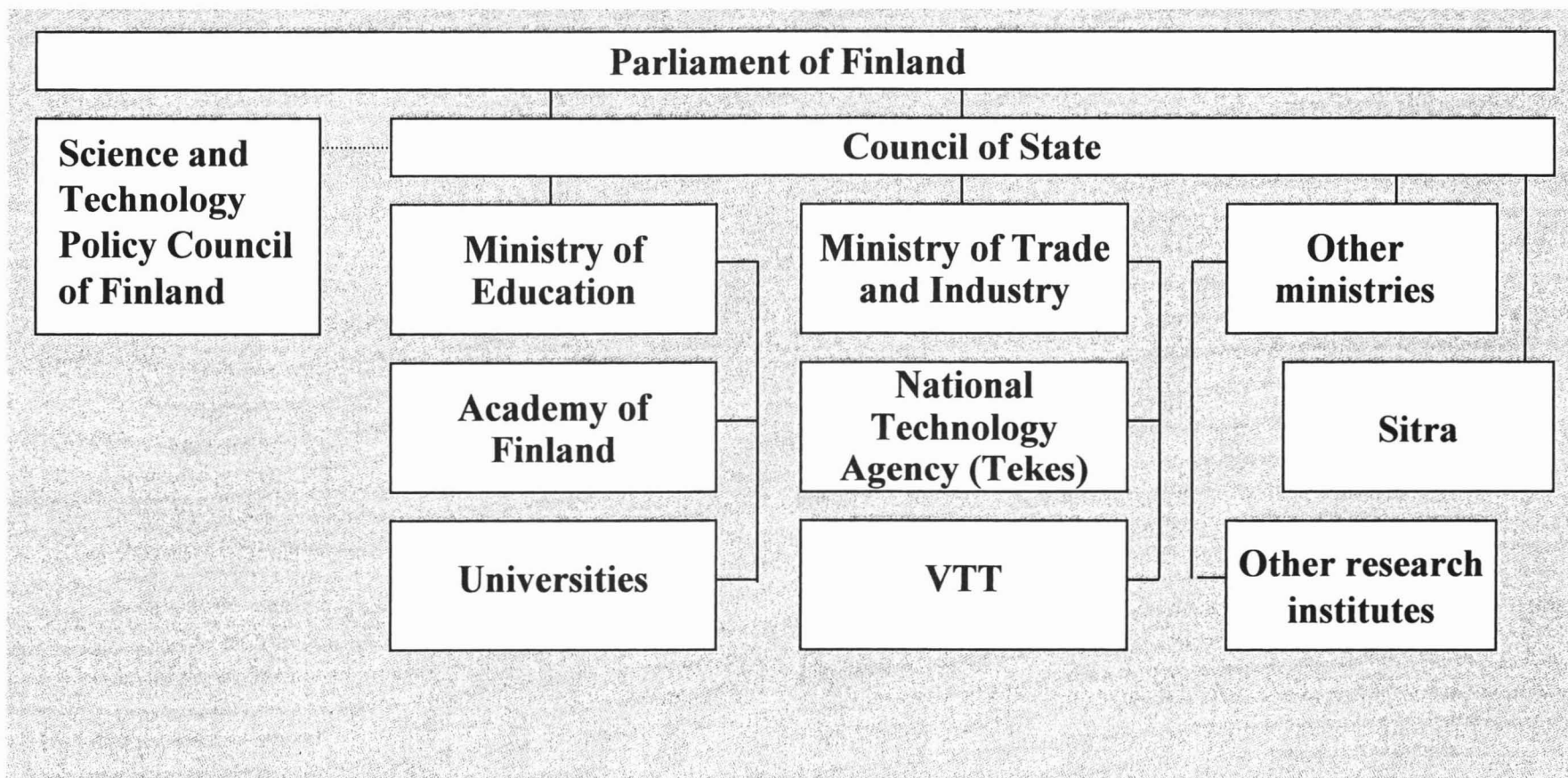
その他参考資料：

- ・VTTパンフレット
- ・VTT年報(2000年版)
- ・VTTウェブサイト

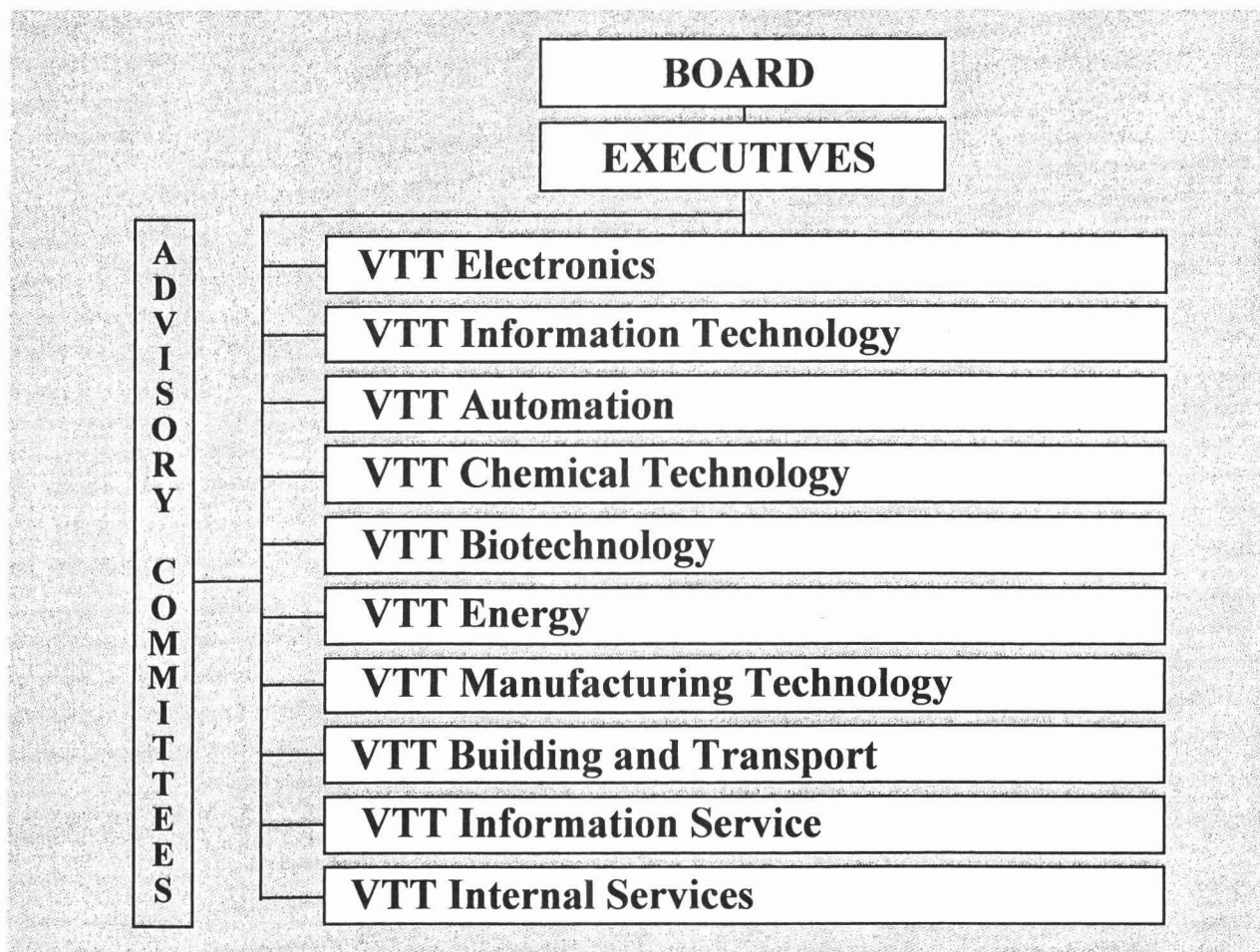
別紙1：VTT案内図



The most important decision makers, financiers and performers of research in the public sector

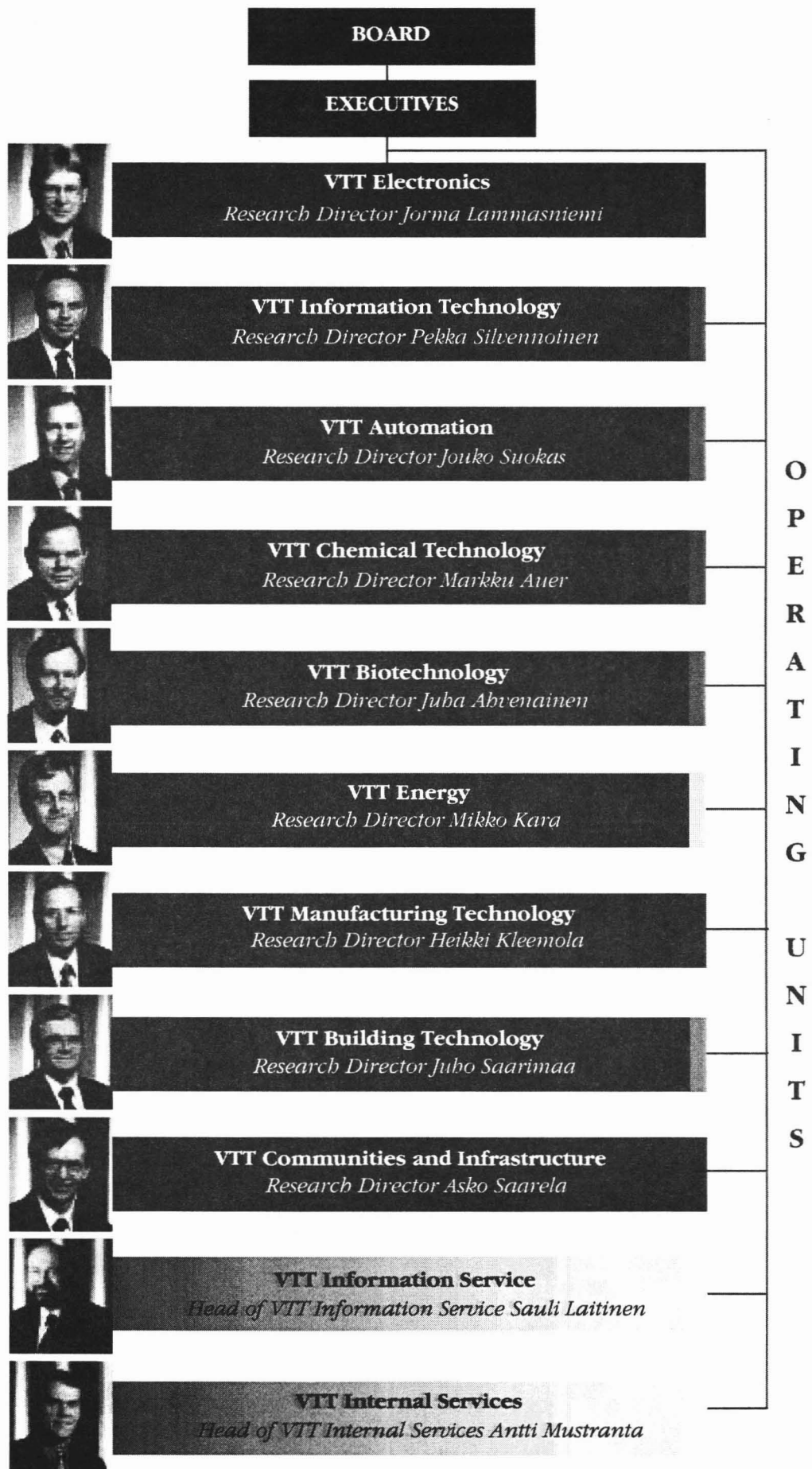


VTT's organization



別紙 4 : V T T 主要メンバー

Organisation January 1, 2000

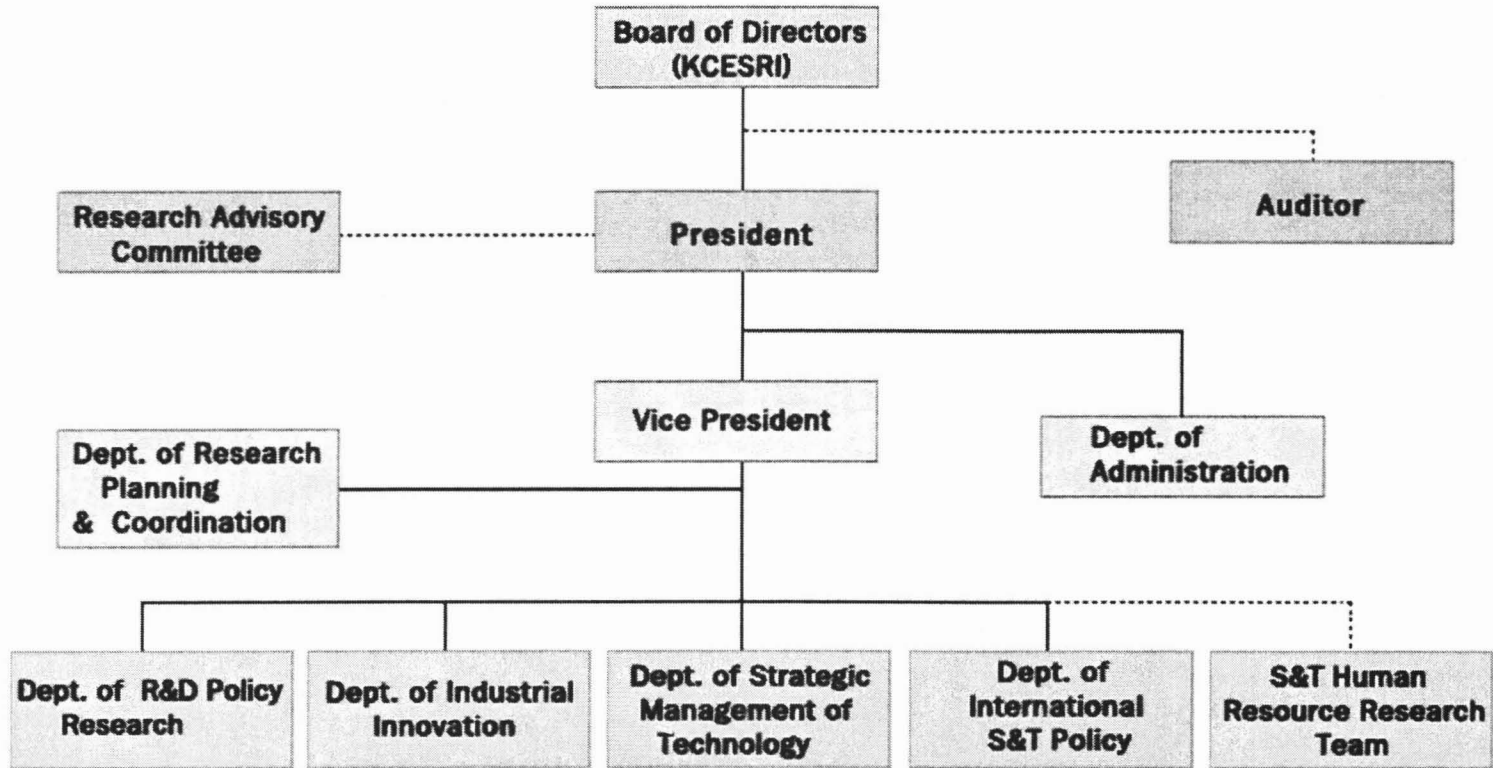


名称 (和文)	韓国 科学技術政策研究院
(英文)	Science and Technology Policy Institute (STEPI)
住 所	Specialty Construction Center 26,27F, 395-70, Shindaebang-dong, Tongjak-gu, Seoul, Korea (zip code.156-010) (地図 ○有・無)
主 要 業 務	<p>・当初、政府の科学技術政策立案をサポートするための政府組織として創設されたが、1999年の行政組織の改革に伴い、韓国政府、産業界、学界を顧客とする準公的シンクタンクに移行。</p> <p><主要目的></p> <p>(1) 科学技術に関する問題の研究と分析に基づき、政府に政策代替案を提示すること。</p> <p>(2) イノベーション戦略についての支援を産業（民間企業）に行うこと。</p> <p>(3) 科学技術政策についての情報、指標、統計を普及させること。</p> <p><主な研究テーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の経済学（経済成長に与える技術変化のインパクト、研究開発投資の社会・経済的効果、ナショナル・イノベーション・システム、科学技術統計・指標、科学技術人材の開発と活用） ・研究開発政策（研究開発政策の優先領域、研究開発プログラムのアセスメント、基礎科学の向上のための政策代替案、研究開発実施部門とネットワーク、地域イノベーションシステム、科学技術基盤） ・産業技術イノベーション（主要産業の技術競争力のアセスメント、産業別の技術開発の長期的軌跡、中小企業とベンチャービジネスのための技術的イノベーション戦略、技術開発の振興策、研究開発成果の普及政策、産学官の連携） ・国際科学技術政策（科学技術政策の国際化、2国間および多国間の協力プログラム、国際的な科学技術政策の動向分析、国際技術移転、南北朝鮮の科学技術協力のための政策） ・技術マネジメント（研究開発と技術の戦略、公的／民間研究開発機関のマネジメント、大規模研究開発プロジェクト、知識のマネジメント、研究開発管理者の養成と教育）
組 織 構 成	<ul style="list-style-type: none"> ・政策研究センター： ・研究開発政策部門： ・産業技術・イノベーション部門： ・国際科学技術政策部門： ・技術マネジメント部門： ・科学技術人材研究チーム ・（別紙 ○有・無）

職員数及び 研究スタッ フ数	・研究者数 40 名（社会科学・自然科学・工学の多様な バックグラウンドを有する学際研究チーム） →合計約??人の大学院生が研究補助者として在籍
年間予算	非営利機関：研究会議・財団からの助成金、政府・産業界・国 際機関<EU、OECD、世銀、国連機関>からの委託研究、教育によ り予算確保（財源の多様性による中立性・公平性を重視）
創設時期	1987 年（ただし Center for Science and Technology Policy (CSTP)として創設。1991 年に現在の名称へ変更）
コンタクト パーソン	・ Name: ・ Tel.: + 82-2-3284-1800/1899 ・ Fax: + ・ E-mail: webmaster@stepi.re.kr ・ URL: http://www.stepi.re.kr/
その他 特記事項	1988.12 金甲秀氏を第 1 研究グループ研究員として受入れ 2000.1 研究協力覚書締結 2000.2 国際シンポジウムに Eun-Kyoung Lee 氏を講演者とし て招へい 2002.3～2002.04 金甲秀氏を JSPS フェロー特別研究員とし て第 2 研究グループに受入れ

（作成者：第 2 研究グループ 富澤宏之／作成協力：韓国・科学技術政策
研究院・金甲秀部門長；2002 年 3 月）

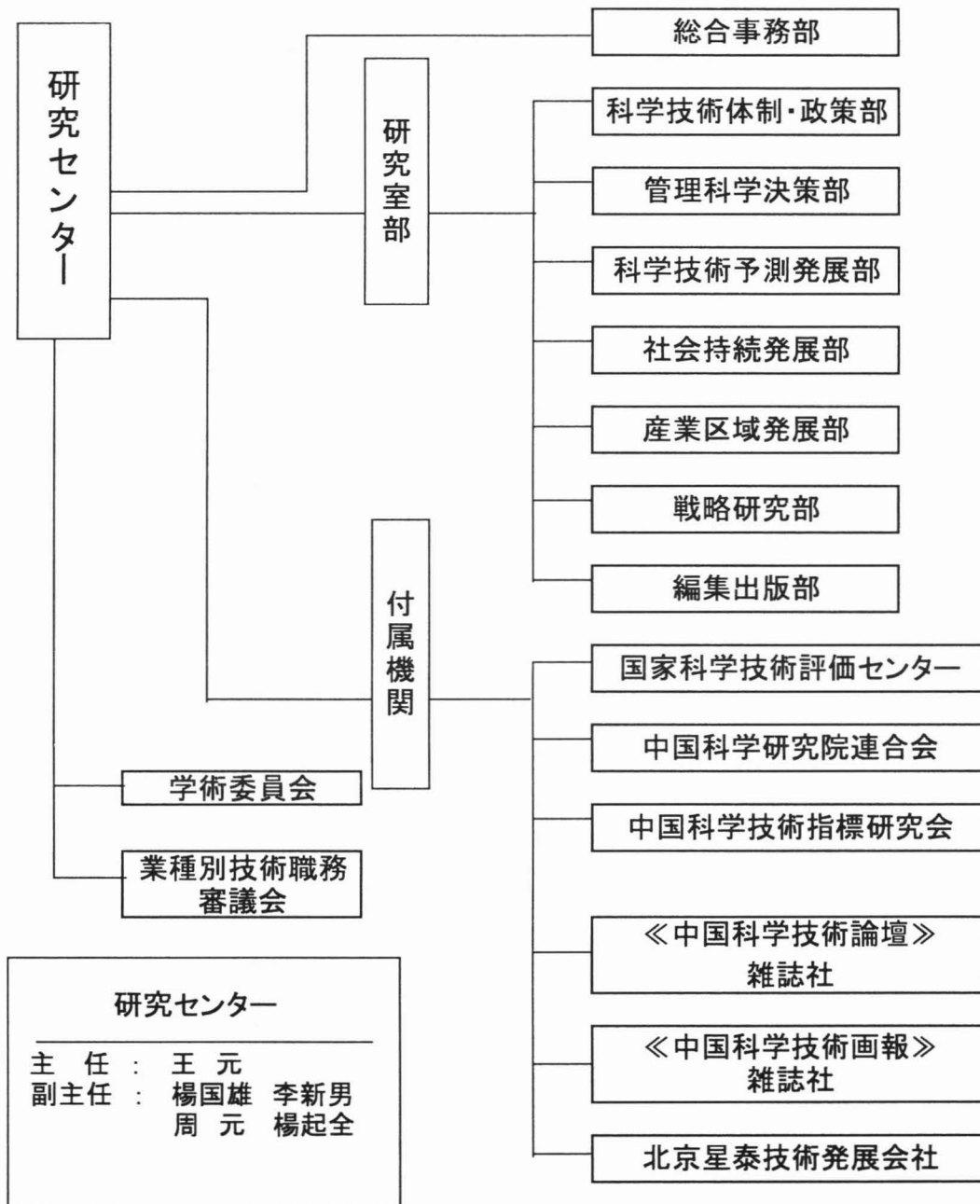




名称 (和文)	中国科学技術促進發展研究中心
(英文)	National Research Center for Science and Technology for Development <NRCSTD>,The Ministry of Science & Technology ,China
(原語)	
住 所	北京海淀区普惠北里8号C座 (地図 有・○無)
主 要 業 務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家科学技術の發展と戦略、政策、体制、管理、予測、評価および科学技術における経済社会發展等の促進や科学研究の促進、国家の科学技術、経済、社会の發展のための戦略を決定するために、情報提供や意見を提出する。 ・ 国家科学技術部やその他の地方政府部門における国内外の企業との共同研究機構、国際組織による委託研究や、研究情報の提供を行なう。 ・ 当センターの研究と業務の情報提供を行ない、科学技術發展と経済社会發展に関連する、科学技術体制・政策、科学技術評価、科学技術予測、科学技術指標・統計、新技術、ハイテクとその産業發展、重大な工事項目の評価、環境、資源と維持の發展、区域發展戦略・計画、社会發展に寄与する。 ・ また、學術物出版、人材教育訓練等の業務も行っている。
組 織 構 成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究センターは、所長と副所長4人で構成され、學術委員会と業種別技術職務審議会を置き、更に學術指導、評議業務、審議業種別技術職務などを行なっている。 ・ 当センターは6つの研究部と総合事務管理部、編集出版部、北京星泰技術發展会社等の構成になっている。 (別紙 ○有・無)
職員数及び研究スタッフ数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10年あまりにわたる發展により、研究センターは、一定規模の高水準の研究官で形成してきている。 ・ 研究センターは現在108名おり、その中で研究情報の提供活動の業種人員は97人、37人は高級業種技術の職務に従事している。
年 間 予 算	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当センターの経費は、今まで政府事業費に依存していたが、国内外で契約による業務主になり、全面的に市場に向かって大きく歩き出した。
創設時期・沿革等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国科学技術促進發展研究中心は、国家科学技術部直属の総合的ソフト科学研究機構であり、1982年10月、國務院に承認され、設立された。

<p>コンタクト パーソン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Name: 劉 彦 ・ Title: 副研究員 ・ Tel.: +86-1-6813-2559 ・ Fax: +86-1-6825-2456 ・ E-mail: ・ URL:
<p>その他 特記事項</p>	<p>1994.1 Kong Deyong 所長と坂内所長（当時）間で研究協力覚書（MOU）を締結。</p> <p>2000.1.17 中国・北京において、中曽根大臣（当時）と朱中国科学技術部長の御陪席の下、Wang Yuan 所長と柴田所長（当時）の間でMOUに署名。</p> <p>2000～「日本と中国の技術貿易の現状」に関する共同研究（2002.1 調査資料公表）</p> <p>2002.2 国際シンポジウムに高志前氏を講師として招へい。</p> <p>2002.3 王元主任による所内国際セミナー開催。</p>

（作成者：情報分析課 相馬 融；2002年3月）



名称 (和文)	国際応用システム分析研究所
(英文)	International Institute for Applied Systems Analysis (IIASA)
(原語)	
住 所	A-2361 Laxenburg, Austria (地図 ○有・無)
主 要 業 務	17 のメンバー国のコンソーシアムから資金を得ている非政府研究所。 主な研究プログラム <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界的な環境変化 ・ 世界経済と技術移転 ・ 世界的諸問題の分析についての方法論
組 織 構 成	メンバー国：17 カ国 ○Full Members Austria, China, Czech Republic, Finland, Hungary, Japan, Netherlands, Norway, Poland, Russian Federation, Slovak Republic, Sweden, Ukraine, United States of America ○Associates Bulgaria, Republic of Kazakhstan ○Affiliate Germany (別紙 有・○無)
職員数及び 研究スタッフ 数	220 名。(うちフルタイムの研究者が約 100 名)
年 間 予 算	US\$13 million (1996) うち 80%がメンバー国負担分。
創設時期・沿革等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷戦中の 1966 年、米大統領 Lyndon Johnson が「アメリカとソビエトの研究者が共に一つの問題に取り組むべき」との発言から構想が始まる。 ・ 1972 年に 12 カ国で IIASA がスタート。東西冷戦の橋渡しとして共通の問題に共同研究を実施。 ・ 1991 年、環境、技術開発、経済のグローバル変化の問題に注目した新しい戦略を採択 ・ 1994 年、参加国の首脳が初めて会談。IIASA の今後の方針につき支持を表明。

<p>コンタクト パーソン</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Name: Marek Makowski • Title: Risk Modeling and Policy Project • Tel.: +43-2236-71-313 • Fax: +43-2236-8070 • E-mail: marek@iiasa.ac.jp • URL: http://www.iiasa.ac.at/
<p>その他 特記事項</p>	<p>1992-93 田口康氏 (S61 科技厅入庁、現防災科学技術推進室長) 留学。</p> <p>1998.4 Prof. Gordon Macdonald 所長来訪。</p> <p>1998.6 Gordon 所長-佐藤所長 (当時) の署名により MOU 締結(2001 年失効)。当時仲介役は渡辺千仞教授 (IIASA の非常勤職員)。</p>

(作成者：科学技術動向研究センター 清貞智会／企画課 藤原志保
；2002 年 3 月)

Location of IIASA in Lower Austria

Maps of IIASA and
Laxenburg facilities

Maps of Laxenburg and IIASA

- IIASA in Lower Austria
- Laxenburg Area
- Search the map of Austria
- Laxenburg Facilities

Map of IIASA

- Ground floor Schloss
- First floor Schloss
- Schloss Beveledere
- Park Wing, Silberkammer
& Little Wing
- General Purpose Building
- Technical Building
- Restaurant
- Conference Center

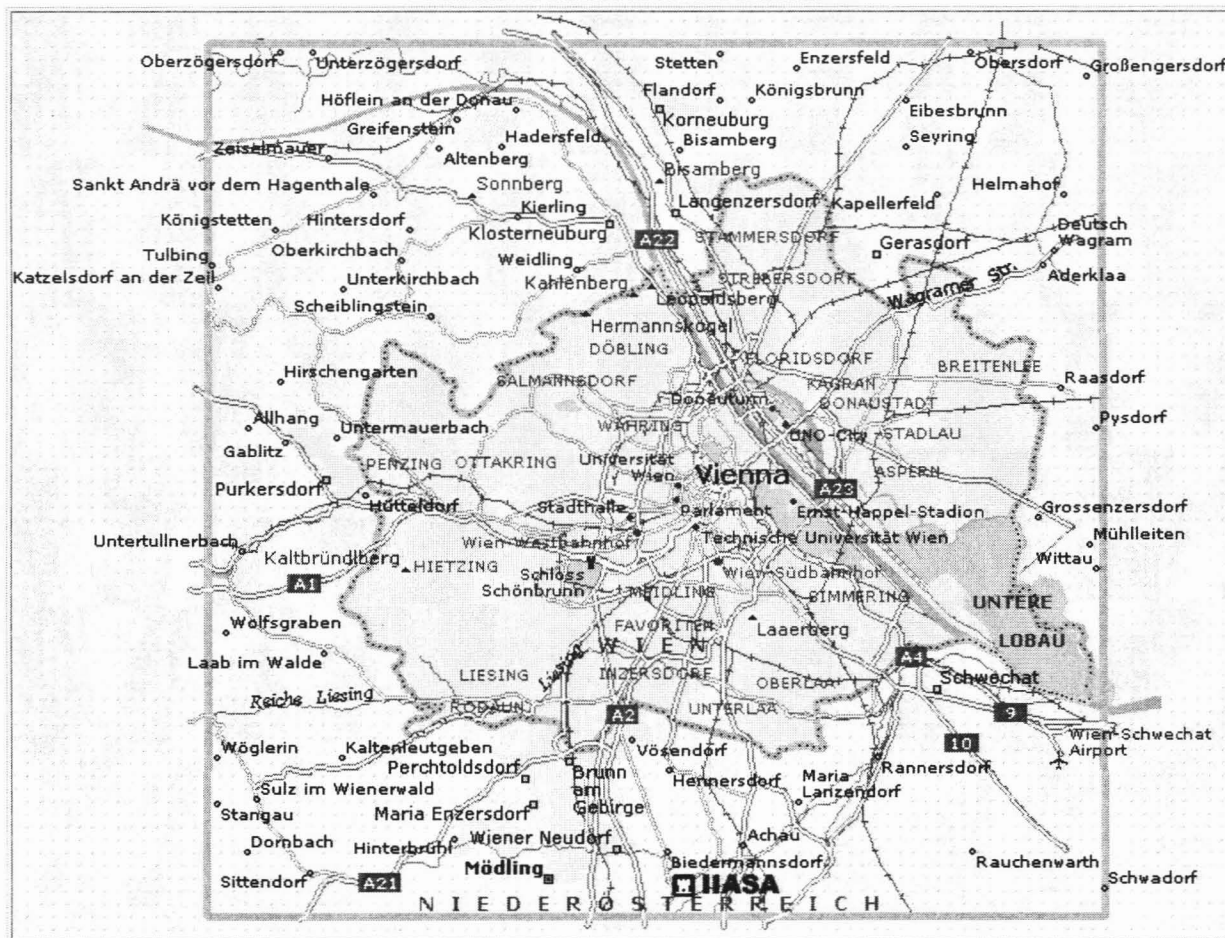
Photographs of IIASA

**IIASA Screen Saver - Laxenburg
Past & Present**

Instructions

Click on the desired map, on the left hand side. After the map is displayed, it is possible to zoom in various rooms and sections of the maps.

Location of IIASA in Lower Austria



Responsible for this page: Serge
Medow
Last updated: 18 Jan 2001

名称 (和文)	APEC 技術予測センター
(英文)	APEC Center for Technology Foresight
(原語)	
住 所	National Science and Technology Development Agency 73/1 Rama VI Road, Rajdhevee, Bangkok 10400, THAILAND (地図 有・○無)
主 要 業 務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数国にわたる技術予測活動の実施 例：水管理、輸送、ナノテクノロジー等 ・ 情報交換ネットワークの構築と管理 ・ ワークショップ等を開催、予測活動を広めるための教育や訓練の実施
組 織 構 成	(別紙 有・○無)
職員数及び 研究スタッ フ数	APEC 加盟国が参加するセンターで、タイ科学技術庁 (NSTDA) が事務局を担当。 名誉所長・議長 (1)、特別顧問 (1)、国際顧問会議 (8 (オーストラリア、カナダ、台湾、日本、韓国、タイ))、運営委員会 (顧問 1, 委員長 1, 委員 9)、事務局 (4)
年 間 予 算	<p>主な資金源は以下の 3 つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイ政府 20 万ドル/年 (運営経費、イベント企画) ・ APEC 15 万ドル (1999-2000 年のプロジェクト経費として) ・ 加盟各国の負担
創設時期・沿 革等	1995 年の APEC 科学技術閣僚会議にてタイがフィージビリティスタディを提案し、実施。 1998 年 2 月、この F S を受け、タイ政府の支援のもとにバンコクに設立することを ISTWG で決定。
コンタクト パーソン	<ul style="list-style-type: none"> ・ Name: Dr. Chatri Sripaipan ・ Title: Co-Director ・ Tel.: ・ Fax: ・ E-mail: ・ URL: http://www.nstda.or.th/apec/
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桑原センター長が設立当初から International Advisory Board のメンバー ・ 2002 年より、宇宙開発事業団池田要理事が名誉所長に就任予定。

(作成者：科学技術動向研究センター 横尾淑子；2001 年 12 月)

名称 (和文)	科学技術政策研究所
(英文)	The National Institute of Science and Technology Policy <NISTEP>, Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology <MEXT>
(原語)	和文に同じ
住 所	〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関 1-3-2 郵政事業庁舎 10F (地図 ○有・無)
主 要 業 務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術政策展開の基礎となる諸事項に係る理論的・実証的調査研究 <ul style="list-style-type: none"> － 研究開発に関する調査研究 (国内外の科学技術動向の把握・分析、研究開発人材育成・研究開発資金・研究体制／環境・研究評価・国際研究協力等の調査研究) － 技術の経済社会ニーズへの適応過程に関する調査研究 (イノベーション促進方策、技術者等の養成確保、研究開発と経済成長との関係等の調査研究) － 科学技術と社会の包括的關係に関する調査研究 (科学技術と社会のコミュニケーション、科学技術と社会のブリッジ強化等の調査研究) － 共通的・基盤的・総合的調査研究 (理論的研究、技術予測調査、科学技術指標の開発整備、地域科学技術振興の調査研究、海外科学技術政策動向の調査研究等) ・ 調査研究成果の対外的発信・提供 ・ 国内外の研究資源・人材の結集、実証マインドを有する政策研究者・立案者の育成
組 織 構 成	(別紙 ○有・無)
職員数及び 研究スタッフ数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2001 年度定員 54 名 (うち調査研究部門 38 名) ・ 民間企業等より特別研究員 9 名受入れ中 (2001 年 10 月現在)
年 間 予 算	・ 2001 年度予算額 9.4 億円 (全額政府からの支出、うち調査研究事業予算 4.0 億円)
創設時期・沿革等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1988.7.1 科学技術政策に係る企画・立案機能強化の一環として旧資源調査所を発展的に改組、科学技術庁の附属研究機関として設置 ・ 2001.1.6 中央省庁再編の一環として文部科学省の附属研究機関となる (同日付けで「科学技術動向研究センター」発足)

<p>コンタクト パーソン</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Name: 齋藤 尚樹 • Title: 企画課長 • Tel.: +81-3-3581-2466 • Fax: +81-3-3503-3996 • E-mail: nsaito@nistep.go.jp • URL: http://www.nistep.go.jp
<p>その他 特記事項</p>	<p>• これまでに海外の約 30 の関連研究機関と研究協力に係る覚書締結、広範な国際交流・協力推進中</p>

(作成者：企画課 齋藤尚樹；2001年11月)

文部科学省科学技術政策研究所 案内図

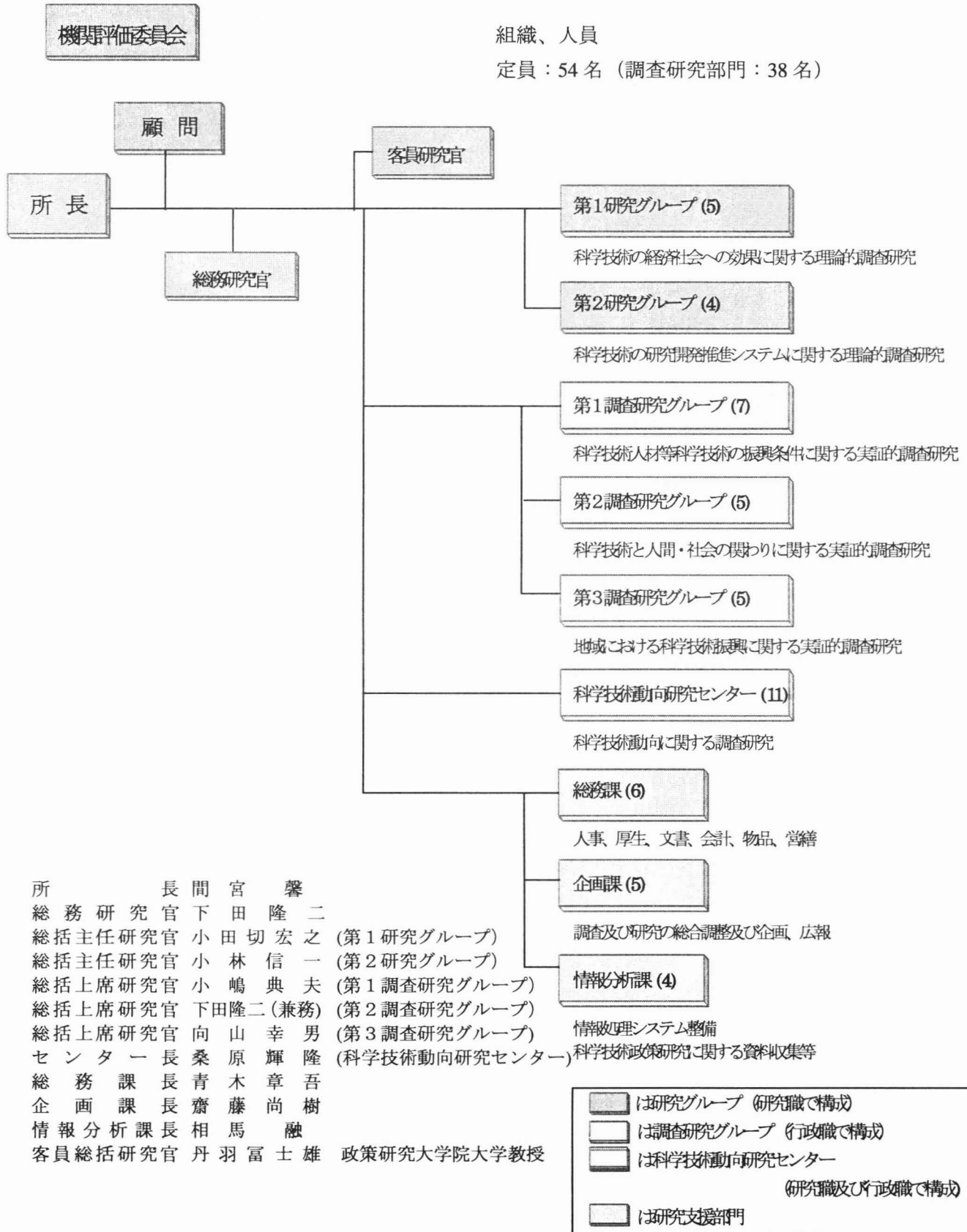


交通：地下鉄丸の内線、日比谷線、千代田線にて「霞ヶ関」駅下車
 A12番出口より徒歩3分
 地下鉄銀座線にて「虎ノ門」駅下車、7番出口より徒歩3分

組織、人員

組織、人員

定員：54名（調査研究部門：38名）



平成14年3月現在